

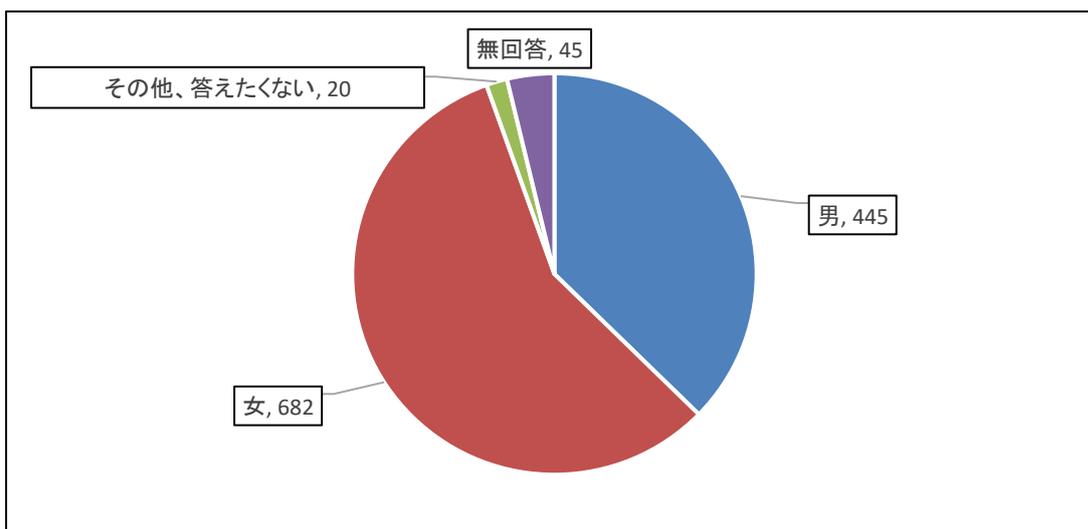
3 集計結果

※クロス集計等で特徴的な傾向がみられた結果に対してはコメントを記載した。

① 属性

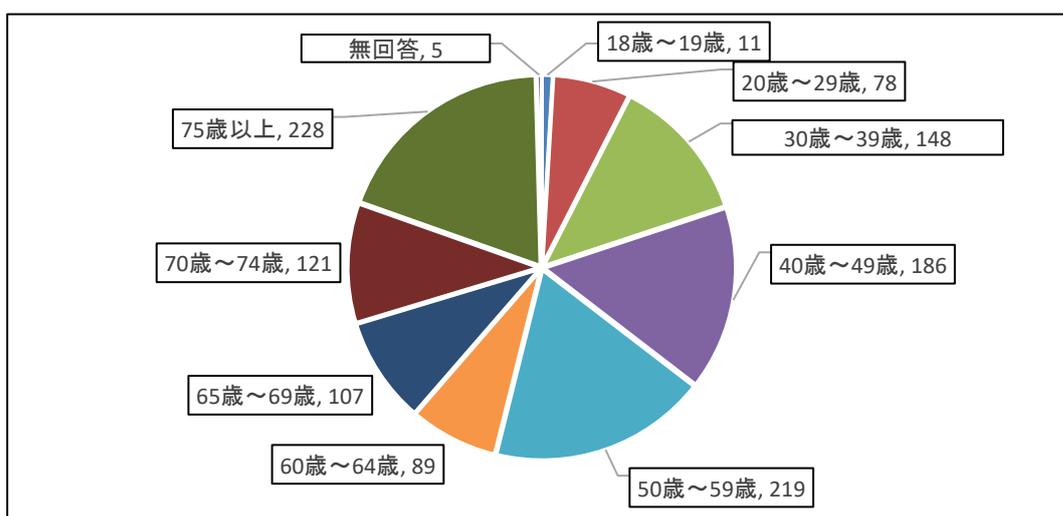
(1) あなたの性別についてお聞かせください。(1つを選択)

	選択肢	回答数	構成比
(1)	男	445	37.3%
(2)	女	682	57.2%
(3)	その他、答えたくない	20	1.7%
	無回答	45	3.8%
	計	1,192	100.0%



(2) あなたの年齢についてお聞かせください。(1つを選択)

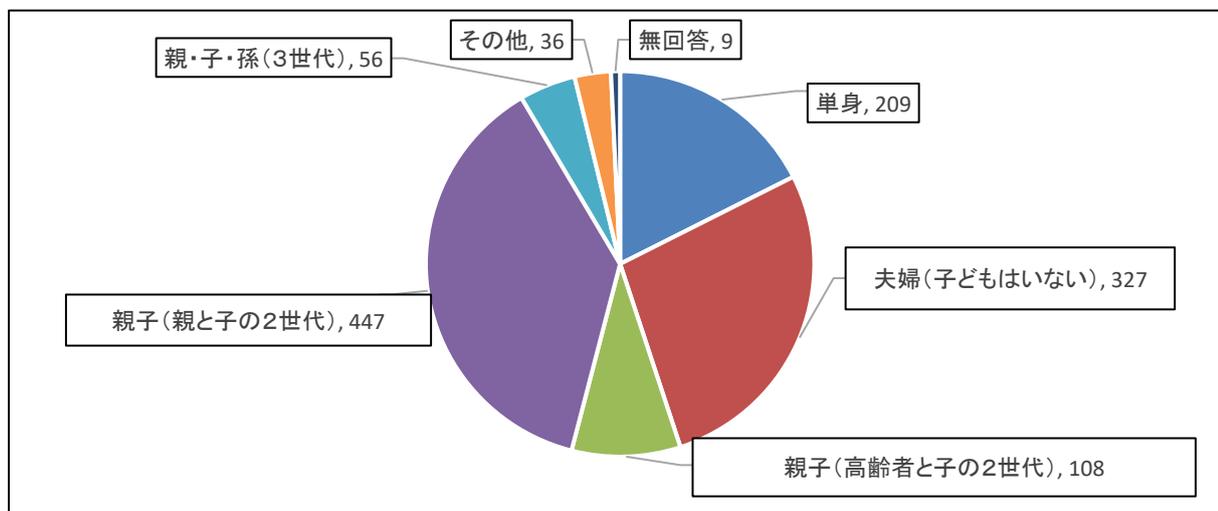
	選択肢	回答数	構成比
(1)	18歳～19歳	11	0.9%
(2)	20歳～29歳	78	6.5%
(3)	30歳～39歳	148	12.4%
(4)	40歳～49歳	186	15.6%
(5)	50歳～59歳	219	18.4%
(6)	60歳～64歳	89	7.5%
(7)	65歳～69歳	107	9.0%
(8)	70歳～74歳	121	10.2%
(9)	75歳以上	228	19.1%
	無回答	5	0.4%
	計	1,192	100.0%



・回答者の構成比と令和5年10月1日時点での人口比を比較すると年齢によって多少の増減はあるが概ね人口割合に沿った回答を得ることができた。傾向としては、「50歳～59歳」を境に若い世代は回答率が人口割合より低く、高齢世代は人口割合よりも高い回答率となっている。このことから若い世代の関心の低さを確認することができる。

(3) あなたと同居する家族の構成についてお聞かせください。(1つを選択)

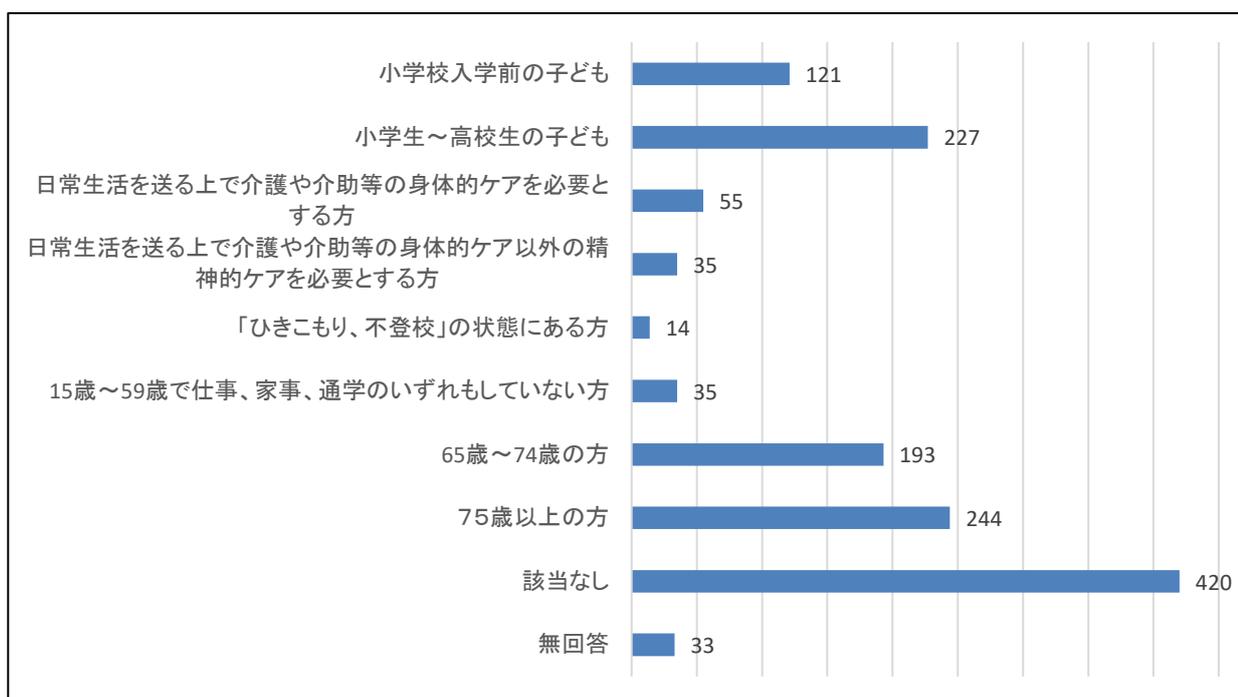
	選択肢	回答数	構成比
(1)	単身	209	17.5%
(2)	夫婦(子どもはいない)	327	27.4%
(3)	親子(高齢者と子の2世代)	108	9.1%
(4)	親子(親と子の2世代)	447	37.5%
(5)	親・子・孫(3世代)	56	4.7%
(6)	その他	36	3.0%
	無回答	9	0.8%
	計	1,192	100.0%



・前回の平成30年度調査と比較しても、大きな家族構成割合の変化はないが、「単身」と回答した人の割合は、前々回調査、前回調査、今回調査と増加している。

(4) あなた自身、もしくはあなたと同居する方に、次のような方はいますか。(あてはまるもの全てを選択)

		回答数	構成比
(1)	小学校入学前の子ども	121	8.8%
(2)	小学生～高校生の子ども	227	16.5%
(3)	日常生活を送る上で介護や介助等の身体的ケアを必要とする方	55	4.0%
(4)	日常生活を送る上で介護や介助等の身体的ケア以外の精神的ケアを必要とする方	35	2.5%
(5)	「ひきこもり、不登校」の状態にある方	14	1.0%
(6)	15歳～59歳で仕事、家事、通学のいずれもしていない方	35	2.5%
(7)	65歳～74歳の方	193	14.0%
(8)	75歳以上の方	244	17.7%
(9)	該当なし	420	30.5%
	無回答	33	2.4%
	回答者計	1,377	100.0%

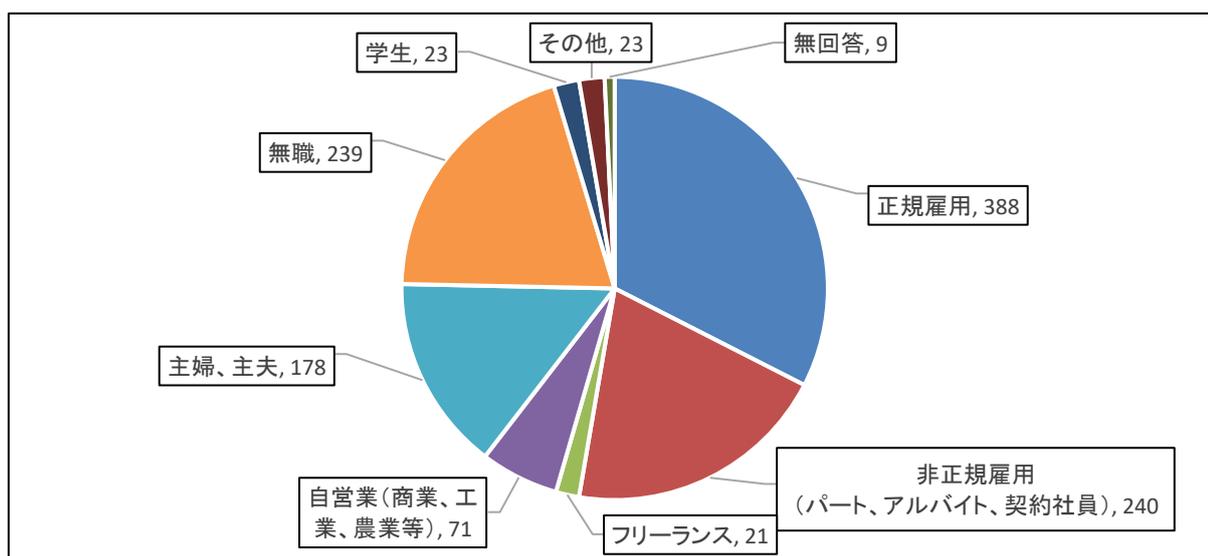


※「精神的ケア」とは、この設問では気分の落ち込みや幻覚、妄想等の心身に様々な影響が出る疾患として、うつ病や双極性障害、統合失調症をはじめ、生まれつきの脳機能の偏りによる発達障害等に対するケアのことをいいます。

・前々回の平成25年度調査では、「小学校入学前の子ども」(7.7%)、「小学生～高校生の子ども」(12.3%)であったため、子どもがいると回答した世帯が増えていると考察されているが、前々回調査、前回調査、今回調査を比較すると、増加傾向はなく、多少の増減はあるもののほぼ横ばいで推移している。

(5) あなたの働き方について、お聞かせください。(1つを選択)

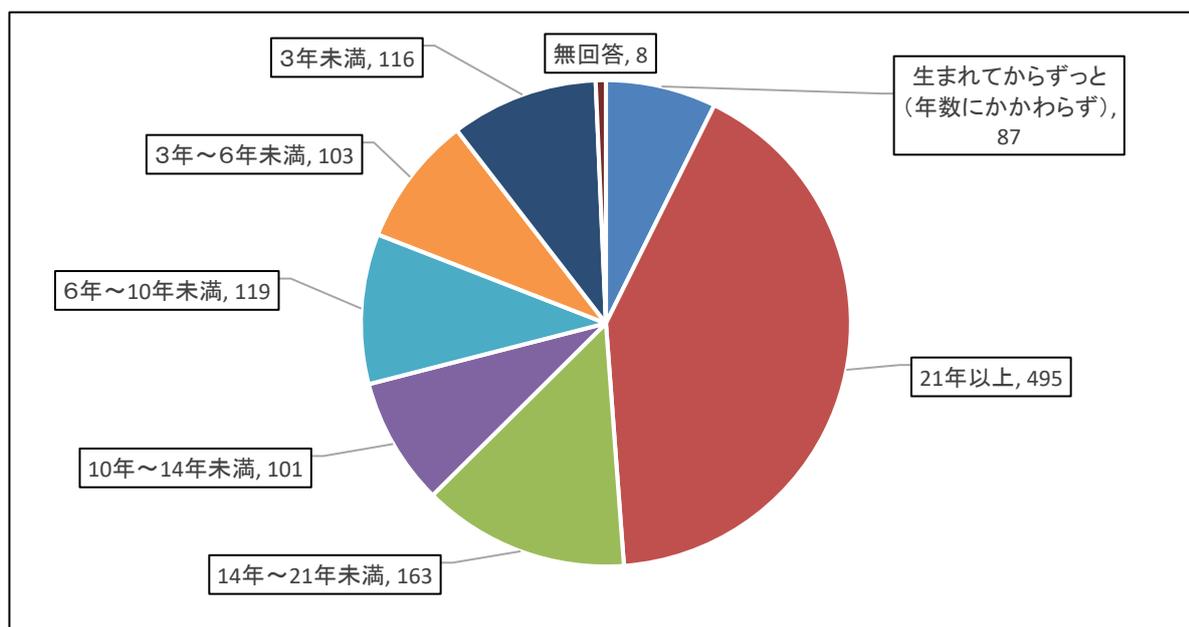
		回答数	構成比
(1)	正規雇用	388	32.6%
(2)	非正規雇用 (パート、アルバイト、契約社員)	240	20.1%
(3)	フリーランス	21	1.8%
(4)	自営業(商業、工業、農業等)	71	6.0%
(5)	主婦、主夫	178	14.9%
(6)	無職	239	20.1%
(7)	学生	23	1.9%
(8)	その他	23	1.9%
	無回答	9	0.8%
	計	1,192	100.0%



- ・「非正規雇用(パート・アルバイト・契約社員)」と回答した人は、前回調査では約8割が女性であったが、今回調査では、約73%となった。
- ・「主婦・主夫」と回答した人は、前回調査では約97%が女性であったが、今回調査では、約90%となった。
- ・「無職」と回答した人は、前回調査では約9割が60歳以上であり、その割合は今回調査では、約92%となった。

(6) 現在お住まいの地域での居住年数についてお聞かせください。(1つを選択)

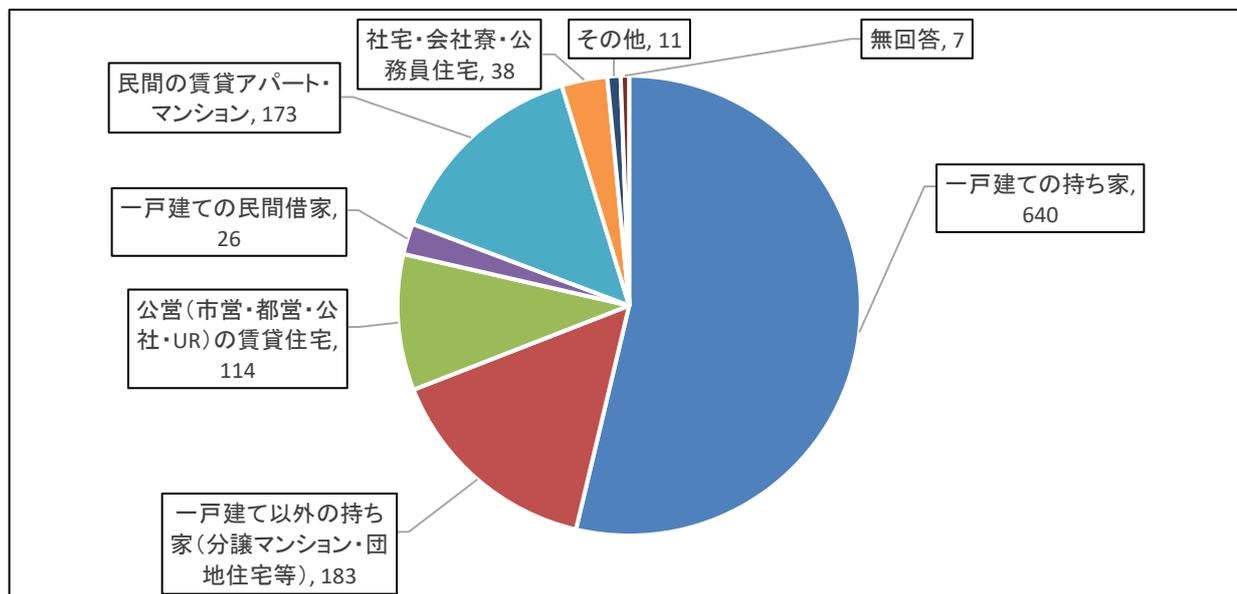
		回答数	構成比
(1)	生まれてからずっと(年数にかかわらず)	87	7.3%
(2)	21年以上	495	41.5%
(3)	14年～21年未満	163	13.7%
(4)	10年～14年未満	101	8.5%
(5)	6年～10年未満	119	10.0%
(6)	3年～6年未満	103	8.6%
(7)	3年未満	116	9.7%
	無回答	8	0.7%
	計	1,192	100.0%



・前回調査では、「21年以上」(「生まれてからずっと」を含む)と回答した人の割合は、42.7%、「10年以上」と回答した人の割合は68.8%であったが、今回調査では、「21年以上」(「生まれてからずっと」を含む)と回答した人の割合は、48.8%、「10年以上」と回答した人の割合は71.0%となり、いずれの割合も上昇しており、長く住んでいる人が増えている。

(7) あなたの現在のお住まいは、どれにあたりますか。(1つを選択)

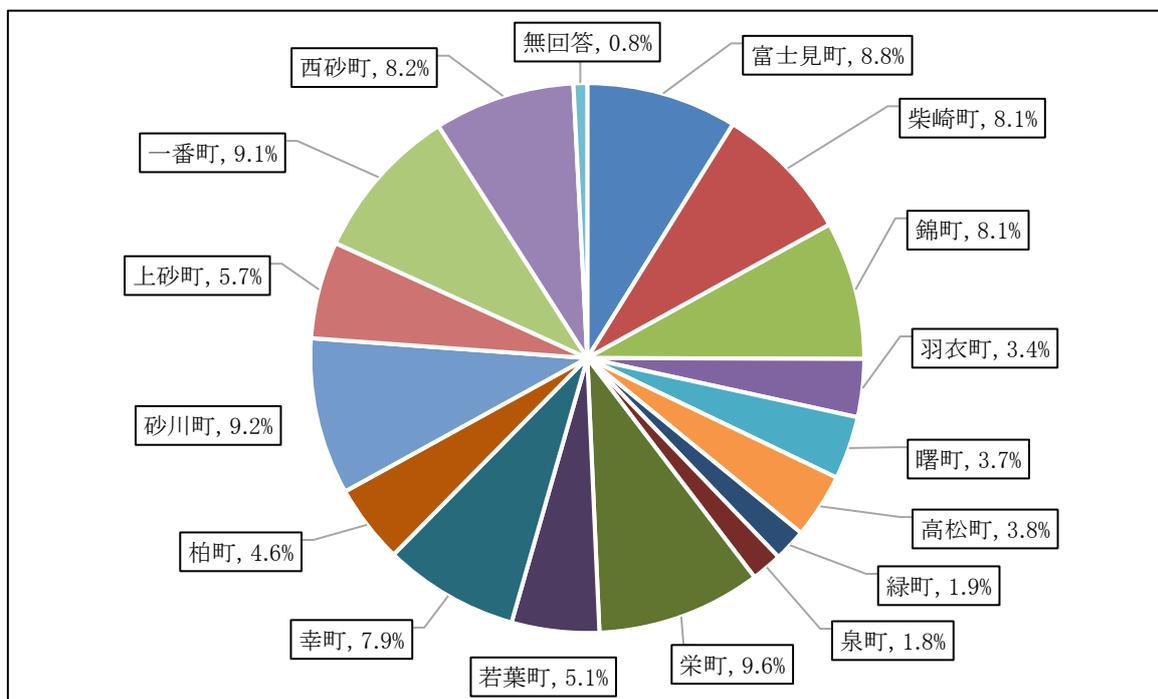
		回答数	構成比
(1)	一戸建ての持ち家	640	53.7%
(2)	一戸建て以外の持ち家(分譲マンション・団地住宅等)	183	15.4%
(3)	公営(市営・都営・公社・UR)の賃貸住宅	114	9.6%
(4)	一戸建ての民間借家	26	2.2%
(5)	民間の賃貸アパート・マンション	173	14.5%
(6)	社宅・会社寮・公務員住宅	38	3.2%
(7)	その他	11	0.9%
	無回答	7	0.6%
	計	1,192	100.0%



- ・前回調査では、「一戸建ての持ち家」と回答した人の割合は、49.2%であったが、今回調査では、「一戸建ての持ち家」と回答した人の割合は、53.7%と上昇している。
- ・前回調査では前々回調査との比較として、「公営の賃貸住宅」の割合が減り(18.6%⇒10.4%)、対して「民間の賃貸アパート・マンション」の割合が増えている(13.3%⇒17.3%)との考察がなされているが、今回調査でそれらの割合は、「公営の賃貸住宅」と回答した人の割合は、9.6%とわずかではあるが減少しているものの、「民間の賃貸アパート・マンション」と回答した人の割合は、14.5%となり、明確な傾向は確認できない。

(8) あなたのお住まいの地区についてお聞かせください。(1つを選択)

		回答数	構成比
(1)	富士見町	105	8.8%
(2)	柴崎町	96	8.1%
(3)	錦町	97	8.1%
(4)	羽衣町	41	3.4%
(5)	曙町	44	3.7%
(6)	高松町	45	3.8%
(7)	緑町	23	1.9%
(8)	泉町	21	1.8%
(9)	栄町	115	9.6%
(10)	若葉町	61	5.1%
(11)	幸町	94	7.9%
(12)	柏町	55	4.6%
(13)	砂川町	110	9.2%
(14)	上砂町	68	5.7%
(15)	一番町	109	9.1%
(16)	西砂町	98	8.2%
	無回答	10	0.8%
	計	1,192	100.0%

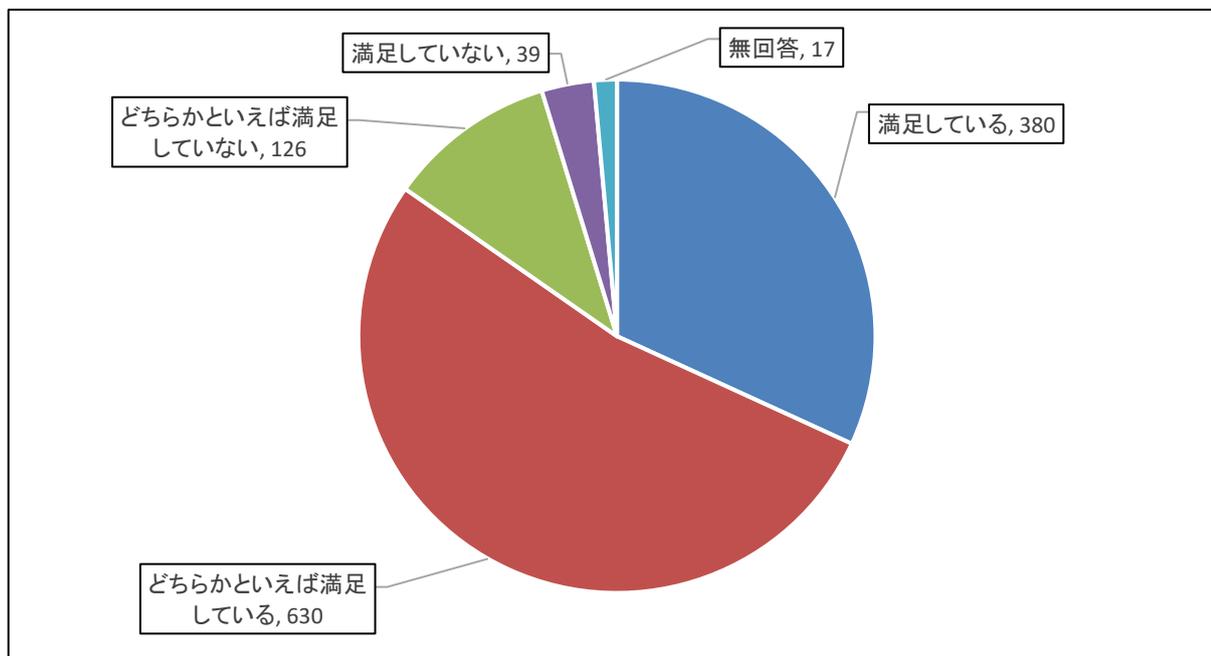


・回答者の町別構成比は、令和5年10月1日時点の人口における町別構成比は、町によって多少の増減はあるが概ね人口割合に沿った回答を得ることができた。

② 調査結果

(9) あなたは立川市やお住まいの地域の生活に満足していますか。(1つを選択)

		回答数	構成比
(1)	満足している	380	31.9%
(2)	どちらかといえば満足している	630	52.9%
(3)	どちらかといえば満足していない	126	10.6%
(4)	満足していない	39	3.3%
	無回答	17	1.4%
	計	1,192	100.0%

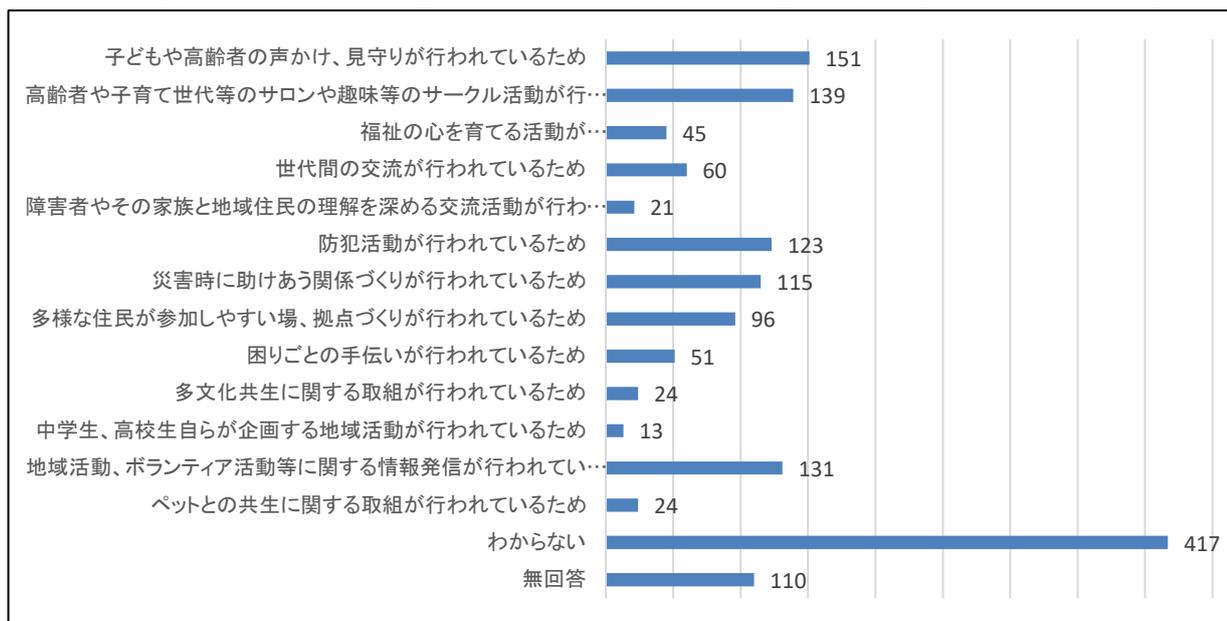


- ・年齢別にみても、各世代とも約8割の人が「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答している。
- ・居住地域別でみた場合、「満足していない」「どちらかといえば満足していない」と回答した人は、柏町、上砂町、一番町、西砂町では20%を超えている。次いで若葉町が16.4%となっている。
- ・「満足していない」と回答した人は、西砂町が最も高く8.2%。
- ・富士見町は「満足」「どちらかといえば満足」の割合が高いが、「満足していない」と回答した人の割合も5.7%と、西砂町に次いで高い割合となっている。

(10) (9)で「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した方にお聞きします。そう思った理由をお聞かせください。(あてはまるもの全てを選択)

		回答数	構成比
(1)	子どもや高齢者の声かけ、見守りが行われているため	151	15.0%
(2)	高齢者や子育て世代等のサロンや趣味等のサークル活動が行われているため	139	13.8%
(3)	福祉の心を育てる活動が行われているため	45	4.5%
(4)	世代間の交流が行われているため	60	5.9%
(5)	障害者やその家族と地域住民の理解を深める交流活動が行われているため	21	2.1%
(6)	防犯活動が行われているため	123	12.2%
(7)	災害時に助けあ関係づくりが行われているため	115	11.4%
(8)	多様な住民が参加しやすい場、拠点づくりが行われているため	96	9.5%
(9)	困りごとの手伝いが行われているため	51	5.0%
(10)	多文化共生に関する取組が行われているため	24	2.4%
(11)	中学生、高校生自らが企画する地域活動が行われているため	13	1.3%
(12)	地域活動、ボランティア活動等に関する情報発信が行われているため	131	13.0%
(13)	ペットとの共生に関する取組が行われているため	24	2.4%
(14)	わからない	417	41.3%
	無回答	110	10.9%
	計	1,520	150.7%

※構成比は「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した1,010名に対する割合。

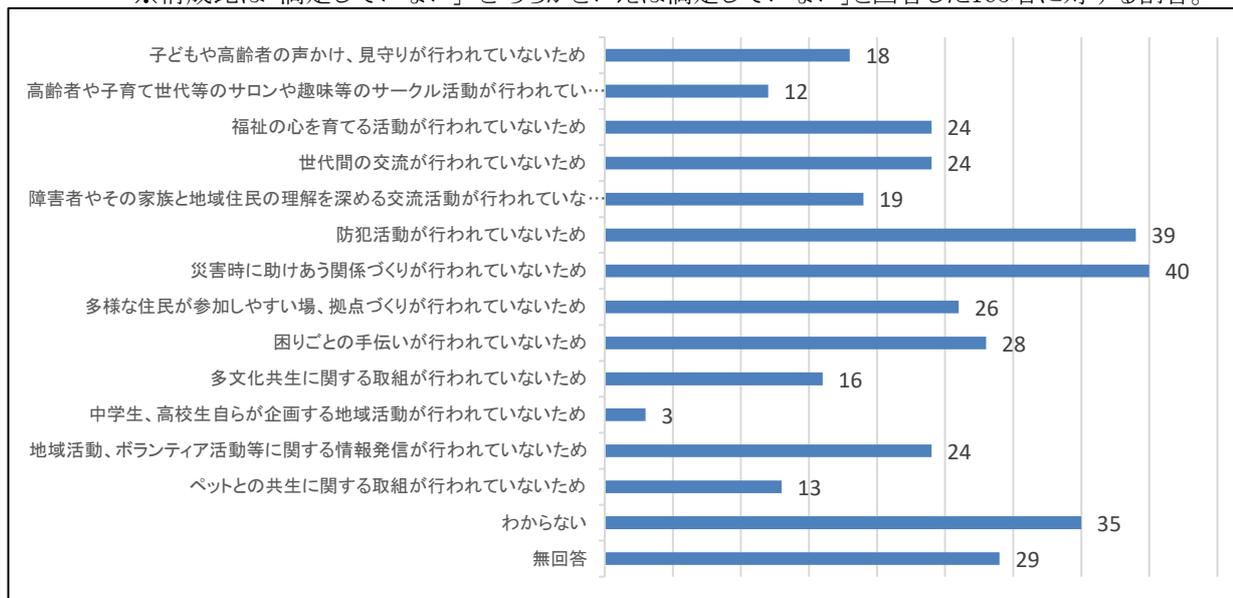


- ・各属性別に見てみると、年齢「18～19歳、20～29歳」および職業「学生」が他より高い割合(5割前後)で「満足している」と回答している。
- ・「わからない」と回答した人が最も多く、属性別に見ても「わからない」と回答した人が多く、(1)～(13)の選択肢以外に理由があると考えられる。

(11) (9)で「満足していない」、「どちらかといえば満足していない」と回答した方にお聞きします。そう思った理由をお聞かせください。(あてはまるもの全てを選択)

		回答数	構成比
(1)	子どもや高齢者の声かけ、見守りが行われていないため	18	10.9%
(2)	高齢者や子育て世代等のサロンや趣味等のサークル活動が行われていないため	12	7.3%
(3)	福祉の心を育てる活動が行われていないため	24	14.5%
(4)	世代間の交流が行われていないため	24	14.5%
(5)	障害者やその家族と地域住民の理解を深める交流活動が行われていないため	19	11.5%
(6)	防犯活動が行われていないため	39	23.6%
(7)	災害時に助けあ関係づくりが行われていないため	40	24.2%
(8)	多様な住民が参加しやすい場、拠点づくりが行われていないため	26	15.8%
(9)	困りごとの手伝いが行われていないため	28	17.0%
(10)	多文化共生に関する取組が行われていないため	16	9.7%
(11)	中学生、高校生自らが企画する地域活動が行われていないため	3	1.8%
(12)	地域活動、ボランティア活動等に関する情報発信が行われていないため	24	14.5%
(13)	ペットとの共生に関する取組が行われていないため	13	7.9%
(14)	わからない	35	21.2%
	無回答	29	17.6%
	計	350	212.0%

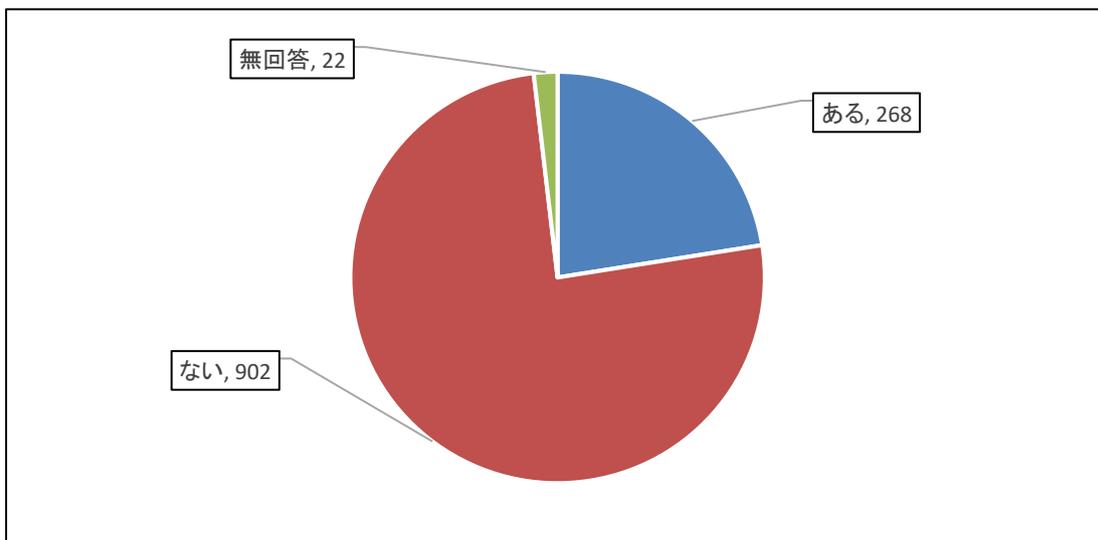
※構成比は「満足していない」「どちらかといえば満足していない」と回答した165名に対する割合。



・「防犯活動が行われていないため」「災害時に助けあ関係づくりが行われていないため」と回答した人がやや多い傾向がある。

(12) あなたは外出したいと思っても、困りごとがあるために諦めたことがありますか。(1つを選択)

		回答数	構成比
(1)	ある	268	22.5%
(2)	ない	902	75.7%
	無回答	22	1.8%
	計	1,192	100.0%

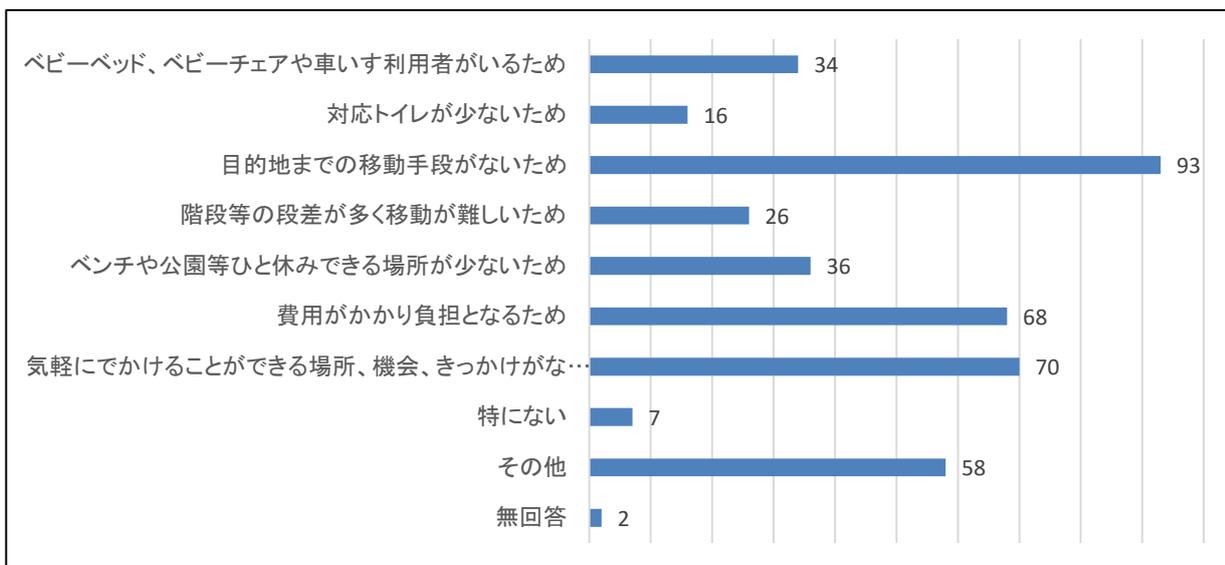


- 性別でみると「ある」と回答した人は男性17.3%、女性25.1%となっており、女性のほうが多い。
- 年齢別で「ある」と回答した人が最も多いのは「30歳～39歳」で35.1%、次いで「20歳～29歳」、「40歳～49歳」の順となっており若年層に多い傾向があり、高齢世代のほうがその割合は低い傾向があった。
- 「高松町」、「若葉町」、「上砂町」、「一番町」、「西砂町」は「ある」の割合が他の地域と比較して高い傾向がある。
- 「日常生活を送る上で介護や介助等の身体的ケア以外の精神的ケアを必要とする方」のみ「ある」と回答した人が「ない」と回答した人を上回っている。同居者内訳で「小学校入学前の子ども」を選択した人も「ある」と回答した割合が高い(46.3%)。
- 設問(14)「日頃、市内を移動するときに最も利用する交通手段」との関連をみると、「自家用車(自分で運転する)」を回答した人は、外出を諦めたことが、ある(16.0%)、ない(25.8%)と約10%の差があり、「自家用車(自分で運転する)」を選択した人のほうが外出を諦めることが少ない。また、「タクシー」と回答した人は外出を諦めたことがある(5.2%)、ない(0.7%)となっており、「タクシー」を最も利用する人のほうが外出を諦めたことが多い。

(13) (12)で「ある」と回答した方にお聞きします。外出を諦めたのはどのような理由でしたか。(あてはまるもの全てを選択)

		回答数	構成比
(1)	ベビーベッド、ベビーチェアや車いす利用者がいるため	34	12.7%
(2)	対応トイレが少ないため	16	6.0%
(3)	目的地までの移動手段がないため	93	34.7%
(4)	階段等の段差が多く移動が難しいため	26	9.7%
(5)	ベンチや公園等ひと休みできる場所が少ないため	36	13.4%
(6)	費用がかかり負担となるため	68	25.4%
(7)	気軽にでかけることができる場所、機会、きっかけがないため	70	26.1%
(8)	特にない	7	2.6%
(9)	その他	58	21.6%
	無回答	2	0.7%
	計	410	152.9%

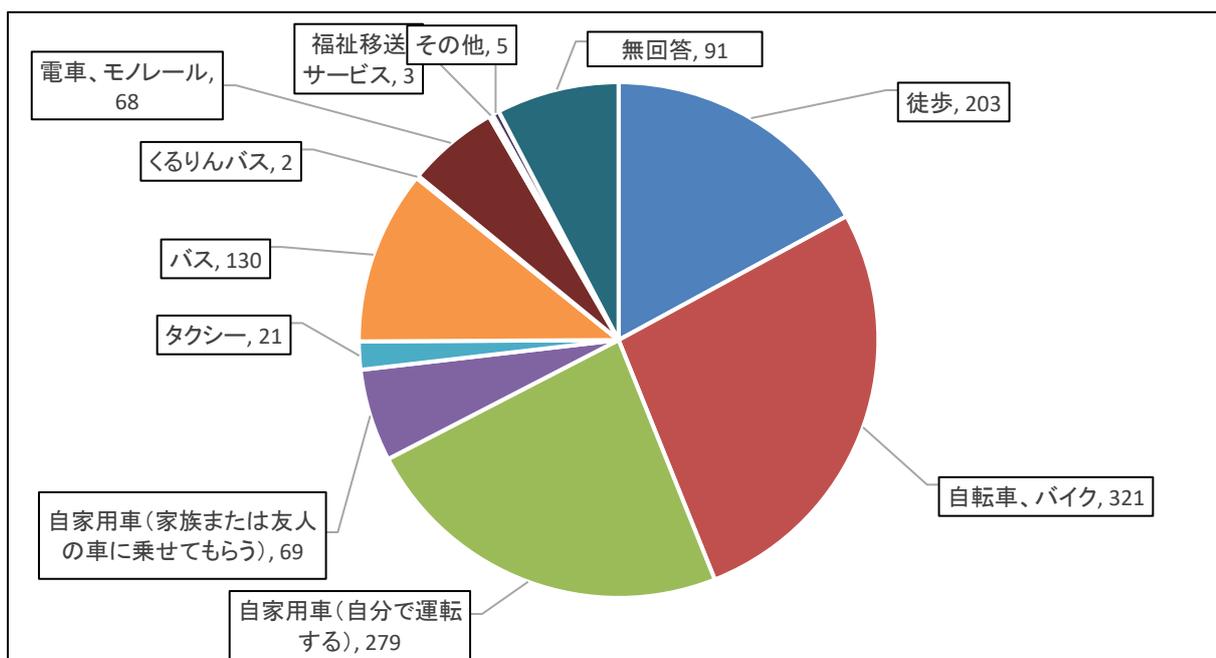
※構成比は「ある」と回答した268名に対する割合。



- 全体および属性別にみても「目的地までの移動手段がないため」、「費用がかかり負担となるため」、「気軽にでかけることができる場所、機会、きっかけがないため」と回答した人の割合が多い傾向があるが、「30歳～39歳」、「親と子の2世代」、「小学校入学前の子ども」などの子育て世代については、「ベビーベッド、ベビーチェアや車いす利用者がいるため」と回答した人が多くなる。
- 外出を諦めた理由として最も多い「目的地までの移動手段がないため」と回答した年齢の内訳を見ると、「30歳～39歳」と「75歳～」の区分が同率で最多であり、20.4%となった。
- 「気軽にでかけることができる場所、機会、きっかけがないため」と回答した人について、年齢の内訳を見ると、「75歳～」が最多で21.4%、次いで「30歳～39歳」と「50歳～59歳」が20.0%となった。
- 性別で見ると、いずれの理由についても、男性よりも女性のほうが「外出を諦めた理由」の割合が多い。

(14) 日頃、市内を移動するとき最も利用する交通手段はなんですか。(1つを選択)

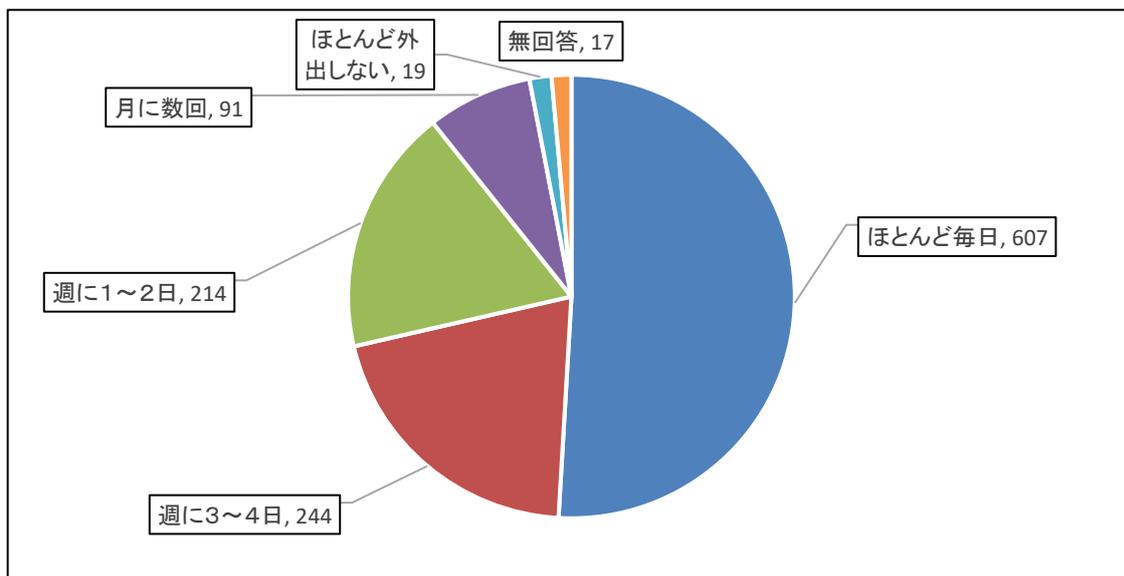
		回答数	構成比
(1)	徒歩	203	17.0%
(2)	自転車、バイク	321	26.9%
(3)	自家用車(自分で運転する)	279	23.4%
(4)	自家用車(家族または友人の車に乗せてもらう)	69	5.8%
(5)	タクシー	21	1.8%
(6)	バス	130	10.9%
(7)	くるりんバス	2	0.2%
(8)	電車、モノレール	68	5.7%
(9)	福祉移送サービス	3	0.3%
(10)	その他	5	0.4%
	無回答	91	7.6%
	計	1,192	100.0%



- ・「自家用車(自分で運転する)」と回答した人のうち、最も多い家族構成は47.7%で「親子(親と子の2世代)」であった。
- ・「自転車・バイク」と回答した人のうち、最も多い家族構成は39.9%で「親子(親と子の2世代)」であった。
- ・「バス」と回答した人は、50%が「75歳～」の年齢であった。
- ・「自転車・バイク」と回答した人は、「40歳～49歳(63人、19.6%)」が最も多く、2番目は「50歳～59歳(61人 19%)」、3番目は「75歳～(48人 15%)」であった。
- ・「75歳～」の人は、「自家用車(自分で運転する)」の割合が少なく、「バス」が高くなっている。
- ・居住地域別によると、南部地域は「徒歩」「自転車、バイク」が優位となり、北部地域は「自家用車(自分で運転する)」「自転車、バイク」が優位となる傾向がみられる。
- ・「富士見町」「若葉町」「泉町」はバスの割合が20%を超えている。
- ・孤立が最も懸念される「単身」「高齢者」はバスの割合が高い傾向がある。
- ・柏町は「電車・モノレール」(20.0%)の割合が最も高く、2番目の幸町(10.6%)と比較しても高い。
- ・くるりんバスが全体で0.2%で、活用されていないことがわかる。

(15) (14)で回答した交通手段の利用頻度について、お聞かせください。(1つを選択)

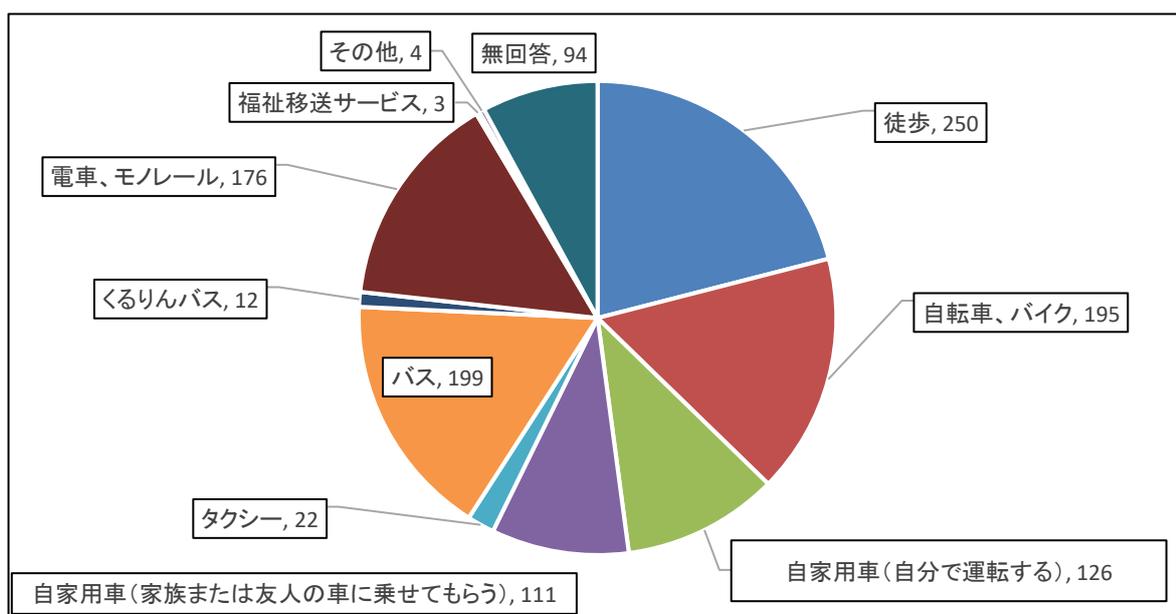
		回答数	構成比
(1)	ほとんど毎日	607	50.9%
(2)	週に3~4日	244	20.5%
(3)	週に1~2日	214	18.0%
(4)	月に数回	91	7.6%
(5)	ほとんど外出しない	19	1.6%
	無回答	17	1.4%
	計	1,192	100.0%



- ・「ほとんど毎日」と回答した人の家族構成は、「親子(親と子の2世代)(256人 42.2%)」が最も多く、2番目は「夫婦(子どもはいない)(142人 23.4%)」、3番目は「単身(108人 17.8%)」である。
- ・週3日以上利用する交通手段は「自転車・バイク」(64.2%)が最も多く、週1~2日では「自家用車(自分で運転する)」(36.0%)が最も多い。月に数回だと、「バス」(41.8%)が多い。

(16) 日頃、市内を移動するときに2番目によく利用する交通手段はなんですか。
(1つを選択)

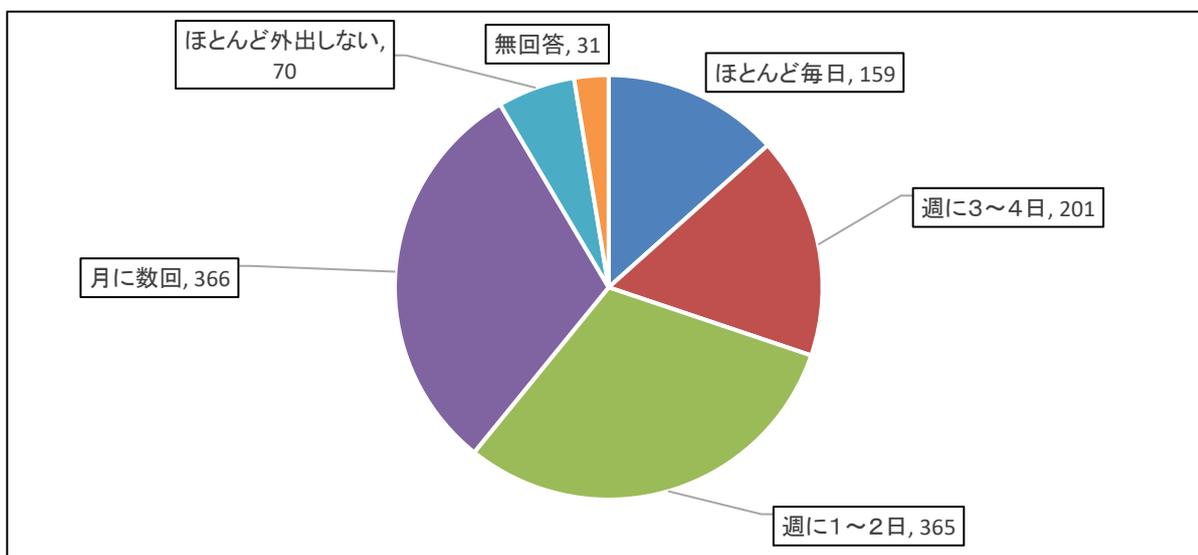
		回答数	構成比
(1)	徒歩	250	21.0%
(2)	自転車、バイク	195	16.4%
(3)	自家用車(自分で運転する)	126	10.6%
(4)	自家用車(家族または友人の車に乗せてもらう)	111	9.3%
(5)	タクシー	22	1.8%
(6)	バス	199	16.7%
(7)	ぐるりんバス	12	1.0%
(8)	電車、モノレール	176	14.8%
(9)	福祉移送サービス	3	0.3%
(10)	その他	4	0.3%
	無回答	94	7.9%
	計	1,192	100.0%



- ・「自転車、バイク」、「自家用車(自分で運転する)」、「自家用車(家族または友人の車に乗せてもらう)」、「電車、モノレール」のいずれかを回答した人のうち、最も多い「家族構成」は「親子(親と子の2世代)」である。
- ・「2番目によく利用する交通手段」が「バス」と回答した人は、「75歳～(64人 32.2%)」が最も多い。
- ・設問14「最も利用する交通手段」では全体で4位だった「バス」が全体2位、全体3位だった「徒歩」が1位となっているが、59歳以下の年齢層では「バス」よりも「電車、モノレール」の割合が高い。

(17) (16)で回答した交通手段の利用頻度について、お聞かせください。(1つを選択)

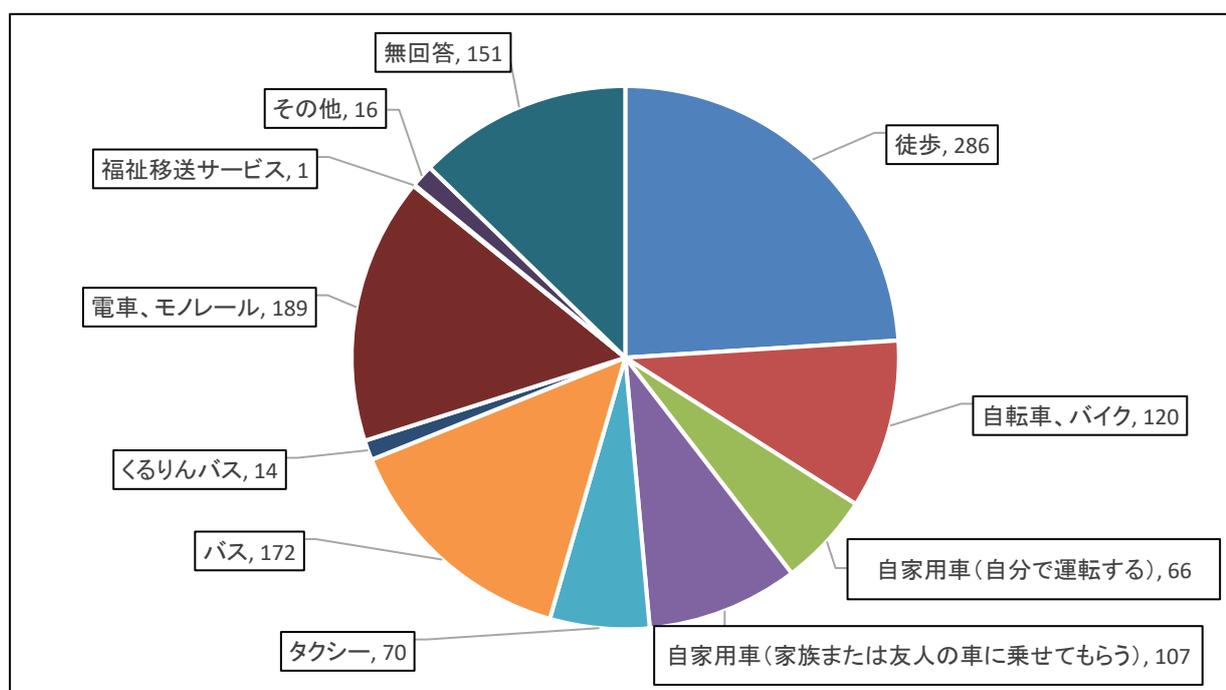
		回答数	構成比
(1)	ほとんど毎日	159	13.3%
(2)	週に3~4日	201	16.9%
(3)	週に1~2日	365	30.6%
(4)	月に数回	366	30.7%
(5)	ほとんど外出しない	70	5.9%
	無回答	31	2.6%
	計	1,192	100.0%



- ・「週に1~2日」と回答した人の家族構成は、「親子(親と子の2世代)(153人 41.9%)」が最も多く、2番目は、「夫婦(子どもはいない)(107人 29.3%)」である。
- ・「月に数回」と回答した人の家族構成は、「親子(親と子の2世代)(135人 36.9%)」が最も多く、2番目は、「夫婦(子どもはいない)(103人 28.1%)」である。

(18) 日頃、市内を移動するとき3番目によく利用する交通手段はなんですか。
(1つを選択)

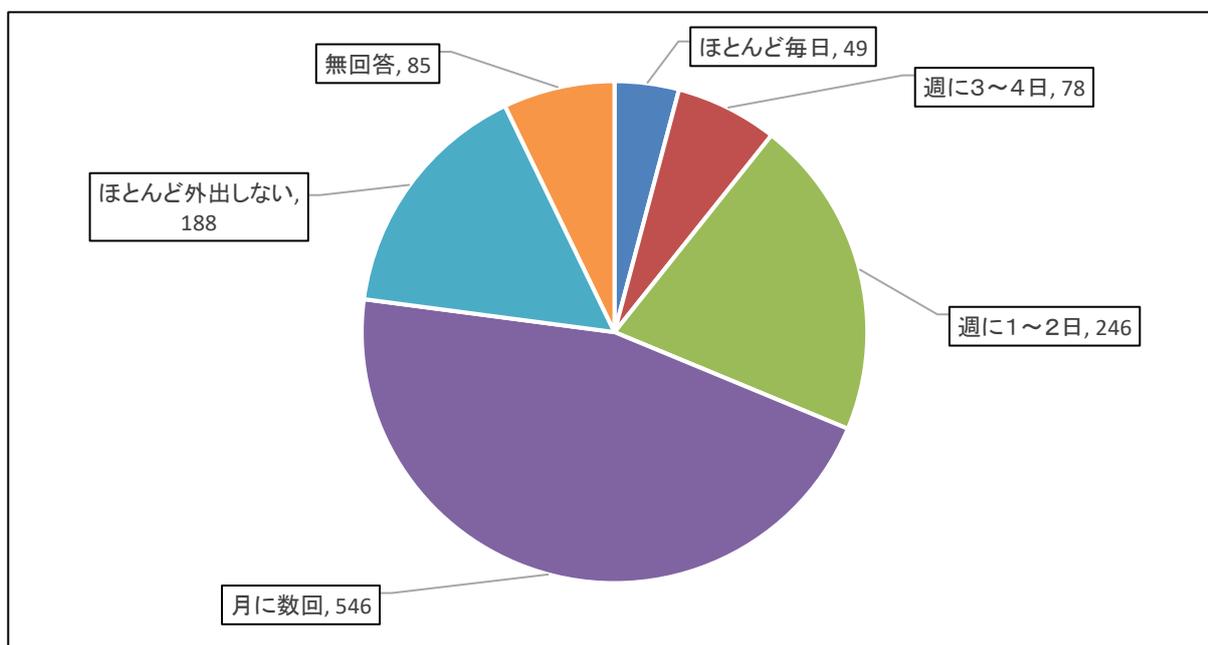
		回答数	構成比
(1)	徒歩	286	24.0%
(2)	自転車、バイク	120	10.1%
(3)	自家用車(自分で運転する)	66	5.5%
(4)	自家用車(家族または友人の車に乗せてもらう)	107	9.0%
(5)	タクシー	70	5.9%
(6)	バス	172	14.4%
(7)	くるりんバス	14	1.2%
(8)	電車、モノレール	189	15.9%
(9)	福祉移送サービス	1	0.1%
(10)	その他	16	1.3%
	無回答	151	12.7%
	計	1,192	100.0%



・くるりんバスは1.2%で、3番目の交通手段としても活用されていない。

(19) (18)で回答した交通手段の利用頻度について、お聞かせください。(1つを選択)

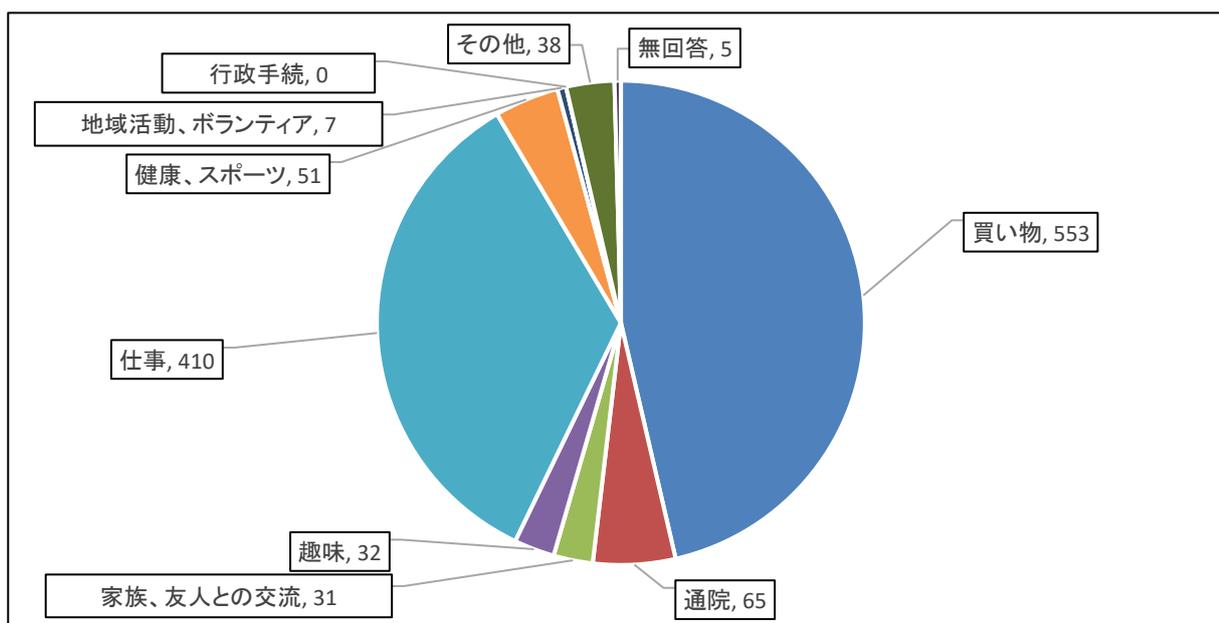
		回答数	構成比
(1)	ほとんど毎日	49	4.1%
(2)	週に3~4日	78	6.5%
(3)	週に1~2日	246	20.6%
(4)	月に数回	546	45.8%
(5)	ほとんど外出しない	188	15.8%
	無回答	85	7.1%
	計	1,192	100.0%



・「月に数回」と回答した人の家族構成は、「親子(親と子の2世代) (228人 41.8%)」が最も多く、2番目は「夫婦(子どもはいない) (148人 27.1%)」である。

(20) 外出の目的として、最も頻度が高いものはなんですか。(1つを選択)

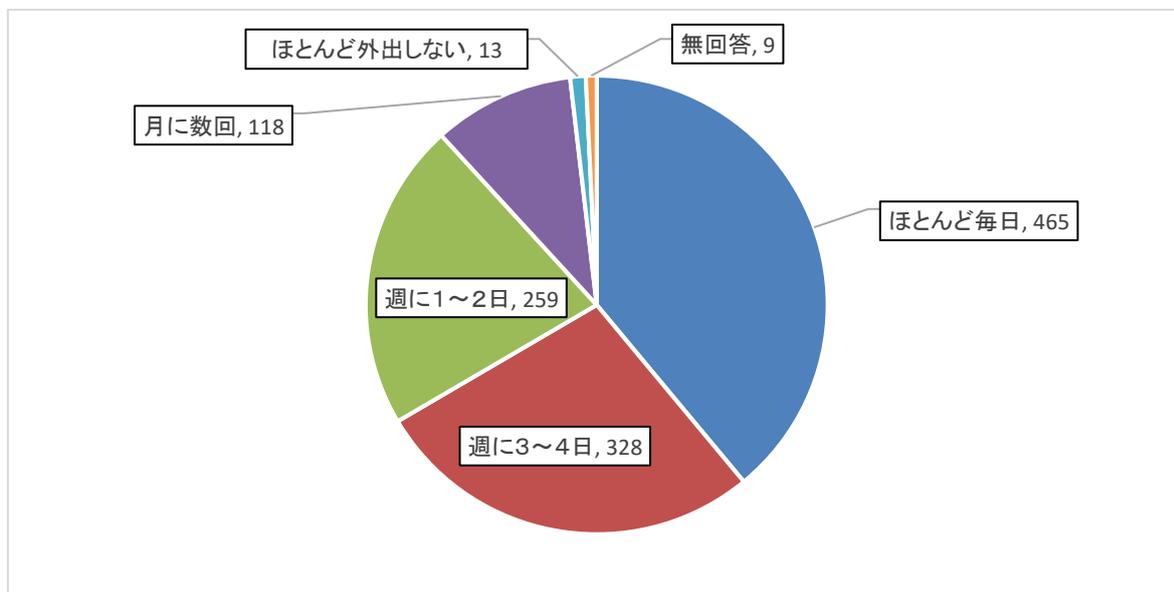
		回答数	構成比
(1)	買い物	553	46.4%
(2)	通院	65	5.5%
(3)	家族、友人との交流	31	2.6%
(4)	趣味	32	2.7%
(5)	仕事	410	34.4%
(6)	健康、スポーツ	51	4.3%
(7)	地域活動、ボランティア	7	0.6%
(8)	行政手続	0	0.0%
(9)	その他	38	3.2%
	無回答	5	0.4%
	計	1,192	100.0%



- ・「最も多い外出理由」を年齢ごとに比較すると、「50歳～59歳」以下の区分では「仕事」の割合が最も多く、「60歳～64歳」以上の区分は「買い物」の割合が最も多い。
- ・年齢別では70歳以上では、「通院」「健康、スポーツ」の割合が増加する傾向がみられる。

(21) (20)で回答した目的の頻度はどのくらいですか。(1つを選択)

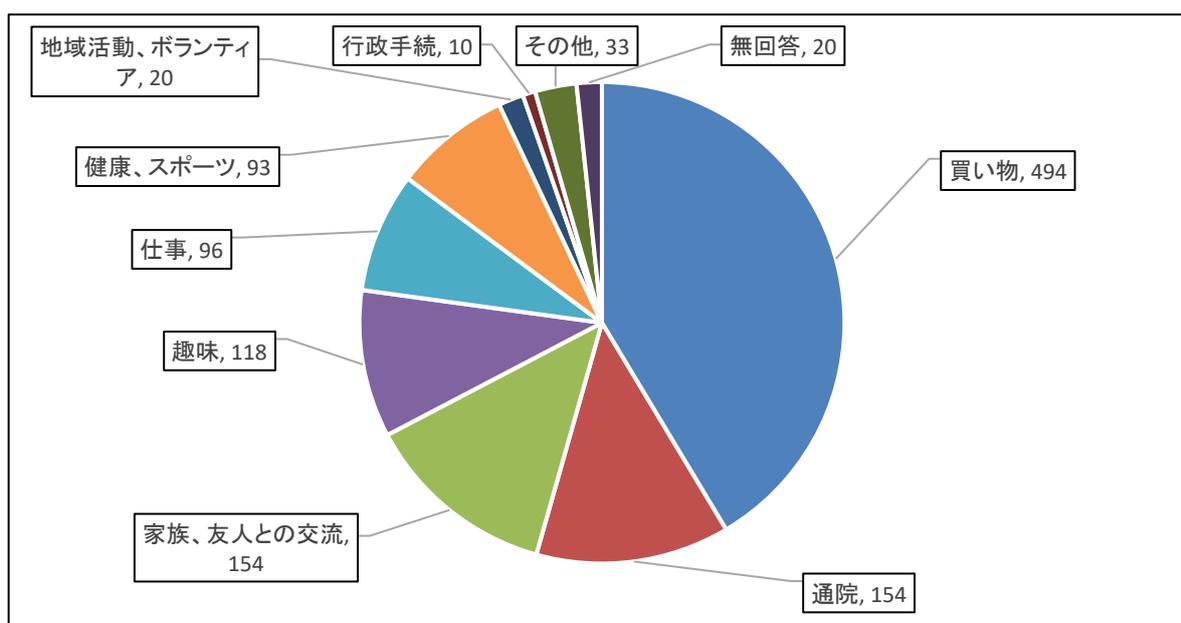
		回答数	構成比
(1)	ほとんど毎日	465	39.0%
(2)	週に3～4日	328	27.5%
(3)	週に1～2日	259	21.7%
(4)	月に数回	118	9.9%
(5)	ほとんど外出しない	13	1.1%
	無回答	9	0.8%
	計	1,192	100.0%



・外出の目的とその頻度を見ると、最も多いのは「仕事」・「ほとんど毎日」(292人 24.5%)、2番目に多いのは「買い物」・「週に1～2日」(190人 15.9%)、3番目に多いのは「買い物」・「週に3～4日」(181人 15.2%)である。

(22) 外出の目的として、2番目に頻度が高いものはなんですか。(1つを選択)

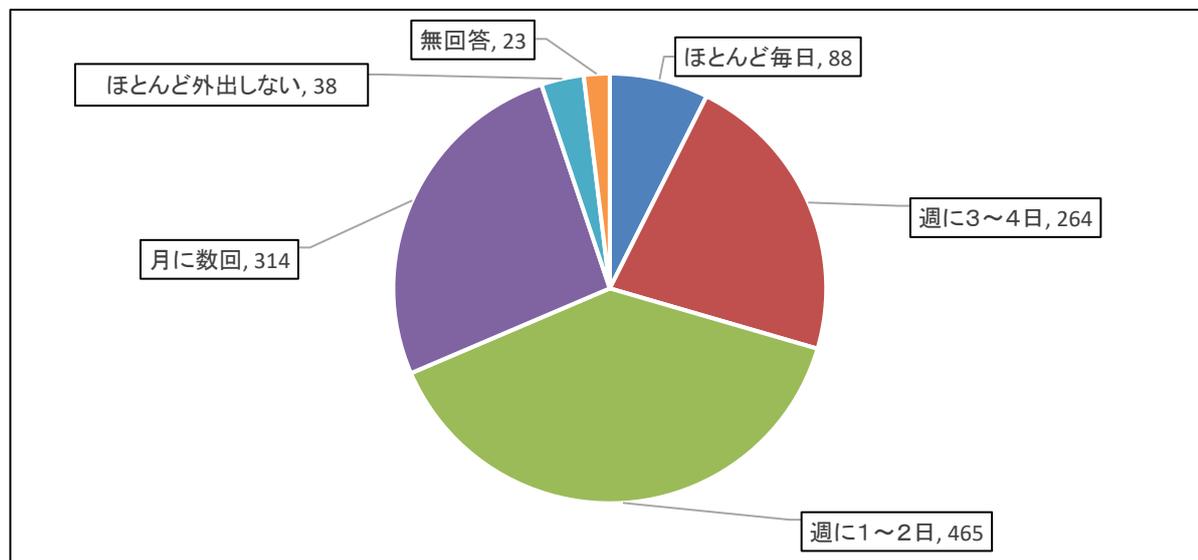
		回答数	構成比
(1)	買い物	494	41.4%
(2)	通院	154	12.9%
(3)	家族、友人との交流	154	12.9%
(4)	趣味	118	9.9%
(5)	仕事	96	8.1%
(6)	健康、スポーツ	93	7.8%
(7)	地域活動、ボランティア	20	1.7%
(8)	行政手続	10	0.8%
(9)	その他	33	2.8%
	無回答	20	1.7%
	計	1,192	100.0%



- ・「2番目に多い外出理由」は、いずれの年齢においても「買い物」の割合が最も多い。
- ・2番目に多い外出目的の交通手段としては、「徒歩(21.0%)」が最も多く、次いで「バス(16.7%)」、「自転車・バイク(16.7%)」、「電車・モノレール(14.8%)」の順で多い。

(23) (22)で回答した目的の頻度はどのくらいですか。(1つを選択)

		回答数	構成比
(1)	ほとんど毎日	88	7.4%
(2)	週に3～4日	264	22.1%
(3)	週に1～2日	465	39.0%
(4)	月に数回	314	26.3%
(5)	ほとんど外出しない	38	3.2%
	無回答	23	1.9%
	計	1,192	100.0%

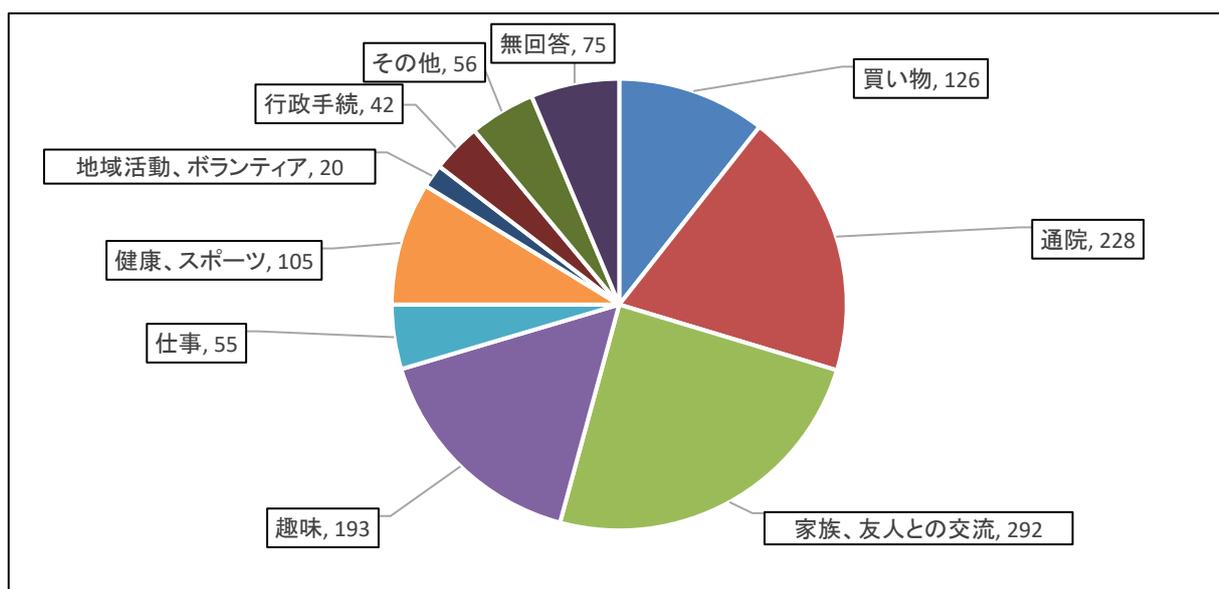


・外出の目的とその頻度を見ると、最も多いのは「買い物」・「週に1～2日」(245人 20.6%)、2番目に多いのは「買い物」・「週に3～4日」(135人 11.3%)、3番目に多いのは「通院」・「月に数回」(114人 9.6%)である。

・2番目の外出頻度は、「週に1～2回(39.0%)」が一番多く、次いで「月に数回(26.3%)」の順が多い。

(24) 外出の目的として、3番目に頻度が高いものはなんですか。(1つを選択)

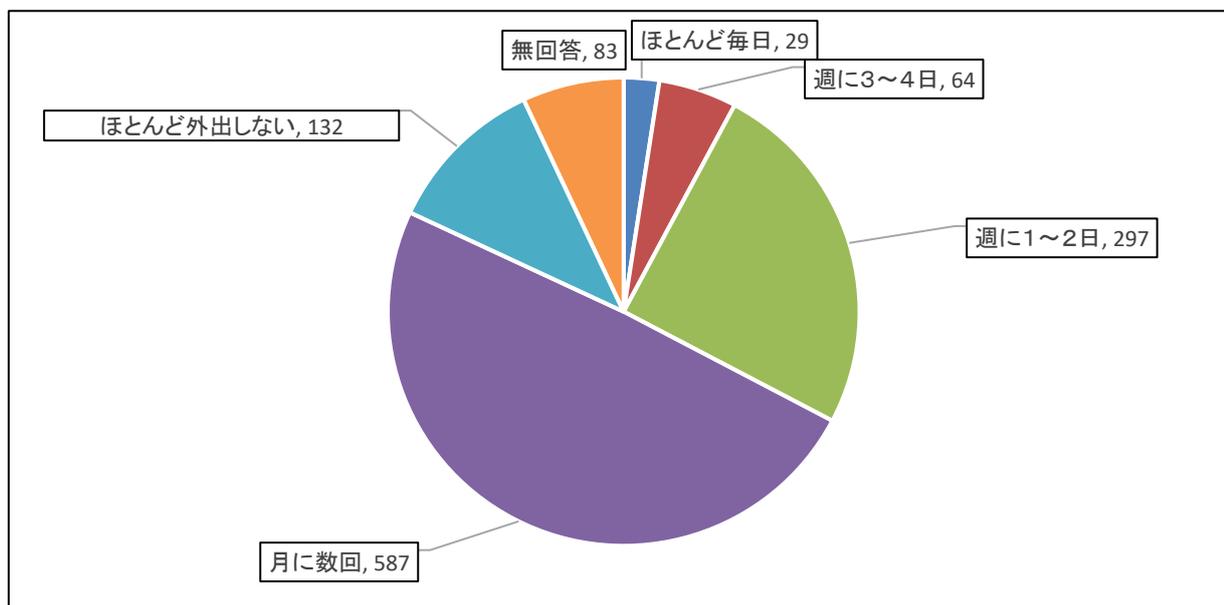
		回答数	構成比
(1)	買い物	126	10.6%
(2)	通院	228	19.1%
(3)	家族、友人との交流	292	24.5%
(4)	趣味	193	16.2%
(5)	仕事	55	4.6%
(6)	健康、スポーツ	105	8.8%
(7)	地域活動、ボランティア	20	1.7%
(8)	行政手続	42	3.5%
(9)	その他	56	4.7%
	無回答	75	6.3%
	計	1,192	100.0%



- ・「3番目に多い外出理由」は、一部の年齢で「通院」や「買い物」と回答した人が最も多いが、年齢を問わず幅広い世代で「家族、友人との交流」が最も多い。
- ・3番目に多い外出で利用する交通手段は「徒歩(24.0%)」が一番多く、次いで「電車、モノレール(15.9%)」、「バス(14.4%)」。

(25) (24)で回答した目的の頻度はどのくらいですか。(1つを選択)

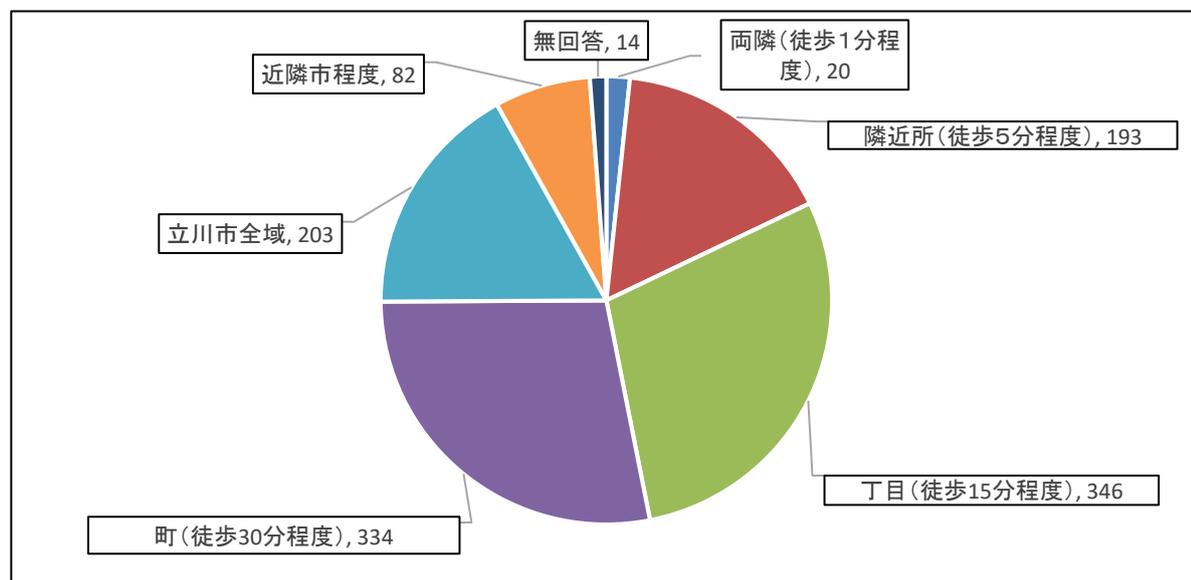
		回答数	構成比
(1)	ほとんど毎日	29	2.4%
(2)	週に3～4日	64	5.4%
(3)	週に1～2日	297	24.9%
(4)	月に数回	587	49.2%
(5)	ほとんど外出しない	132	11.1%
	無回答	83	7.0%
	計	1,192	100.0%



・外出の目的とその頻度を見ると、最も多いのは「家族、友人との交流」・「月に数回」(178人 14.9%)、2番目に多いのは「通院」・「月に数回」(165人 13.8%)、3番目に多いのは「趣味」・「月に数回」である。

(26) あなたが「お住まいの地域」として考えるのは、どのくらいの範囲ですか。
(1つを選択)

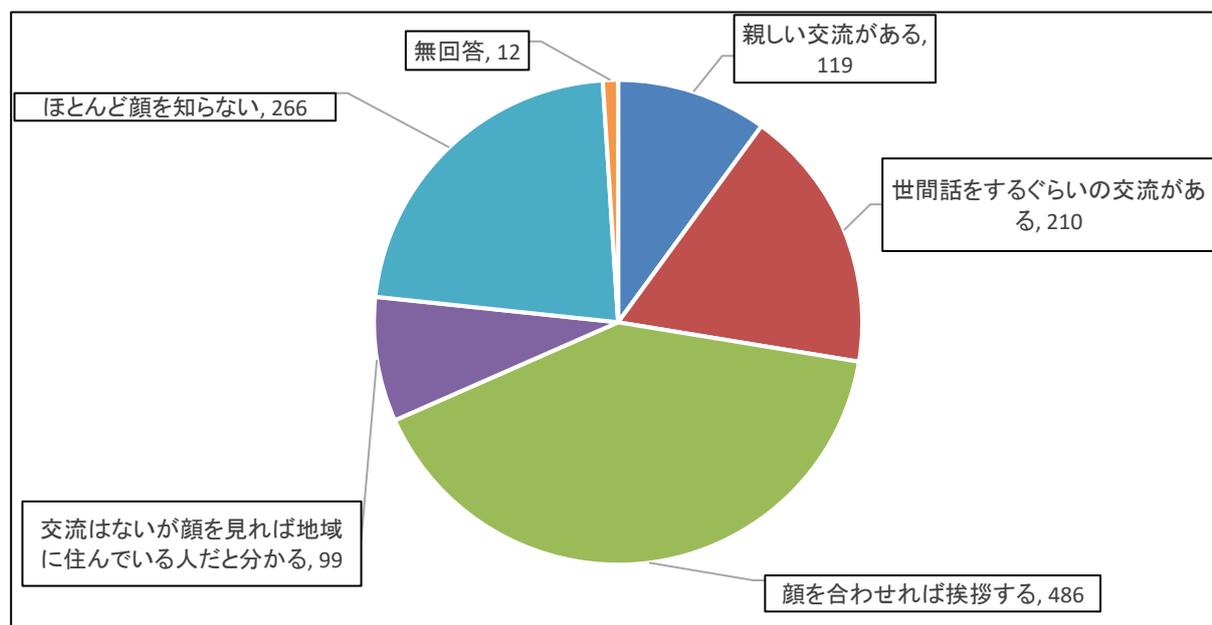
		回答数	構成比
(1)	両隣(徒歩1分程度)	20	1.7%
(2)	隣近所(徒歩5分程度)	193	16.2%
(3)	丁目(徒歩15分程度)	346	29.0%
(4)	町(徒歩30分程度)	334	28.0%
(5)	立川市全域	203	17.0%
(6)	近隣市程度	82	6.9%
	無回答	14	1.2%
	計	1,192	100.0%



- ・「18歳～19歳」、「20歳～29歳」と回答した方は、「お住まいの地域」として考えるのは「立川市全域」との回答が最も多く、「30歳～39歳」以上の世代は、「丁目(15分程度)」、もしくは「町(30分程度)」が最も多いか2番目に多く、その差もわずかである。
- ・「お住まいの地域」の中でのお付き合いについて、それぞれの方が考える「お住まいの地域」との関係を見ると「お住まいの地域」の中でのお付き合いの度合いに関わらず、「丁目(徒歩15分程度)」、「町(徒歩30分程度)」の回答が多い。

(27) 「お住まいの地域」の中でお付き合いはどの程度ですか。(1つを選択)

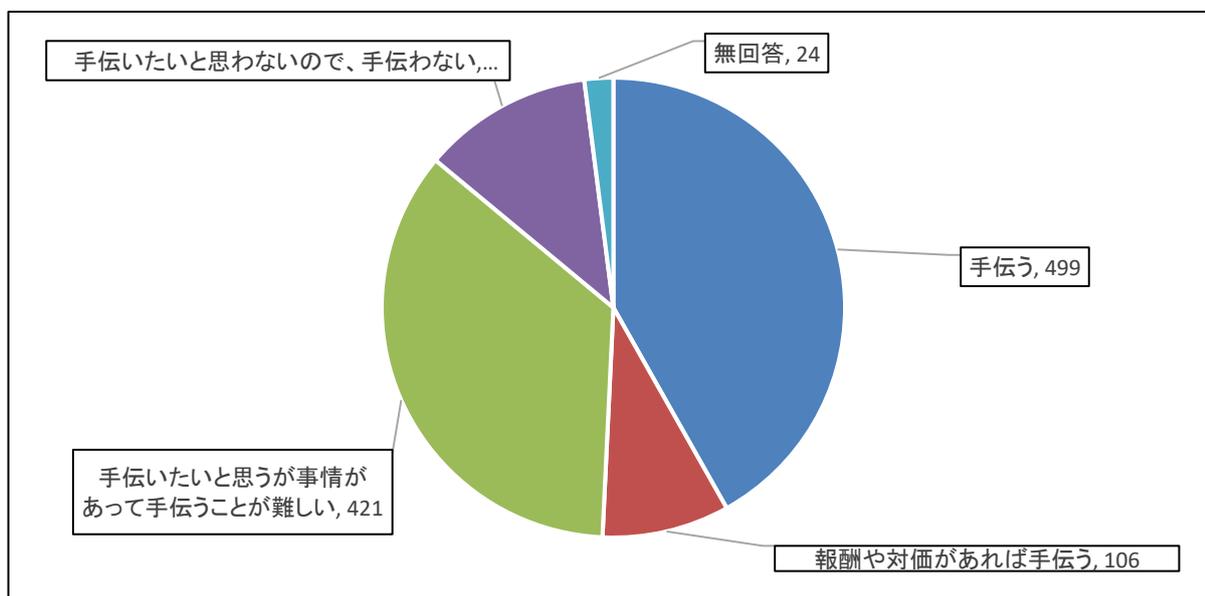
		回答数	構成比
(1)	親しい交流がある	119	10.0%
(2)	世間話をするぐらいの交流がある	210	17.6%
(3)	顔を合わせれば挨拶する	486	40.8%
(4)	交流はないが顔を見れば地域に住んでいる人だと分かる	99	8.3%
(5)	ほとんど顔を知らない	266	22.3%
	無回答	12	1.0%
	計	1,192	100.0%



- ・「家族構成」に関わらず、いずれも半数以上が「親しい交流がある」、「世間話をするぐらいの交流がある」、「顔を合わせれば挨拶する」と回答し、親疎はあるが交流があると回答している。
- ・全体では「顔を合わせれば挨拶する」が最も多く40.8%となるが、39歳以下の年齢層では「ほとんど顔を知らない」の割合のほうが高くなる(平均46.8%)。
- ・働き方でみると、「正規雇用」の人は、「顔を合わせれば挨拶する(39.1%)」の割合も高いが、同時に「ほとんど顔を知らない(32.8%)」の割合も高い。
- ・高松町では「親しい交流がある」の割合が前回と比較して、12.7%減少しており、2番目の泉町(-7.9%)と比較しても減少割合が高い。
- ・住まいが公営住宅と回答した人は、前回と比較して「世間話をするぐらいの交流がある」の割合が-10.4%となっており、2番目の一戸建て以外の持ち家(-4.8%)と比較しても減少割合が高い。

(28) 「お住まいの地域」の方が生活上の困りごとを抱えていることが分かった場合、あなたはどうしますか。(1つを選択)

		回答数	構成比
(1)	手伝う	499	41.9%
(2)	報酬や対価があれば手伝う	106	8.9%
(3)	手伝いたいと思うが事情があって手伝うことが難しい	421	35.3%
(4)	手伝いたいと思わないので、手伝わない	142	11.9%
	無回答	24	2.0%
	計	1,192	100.0%

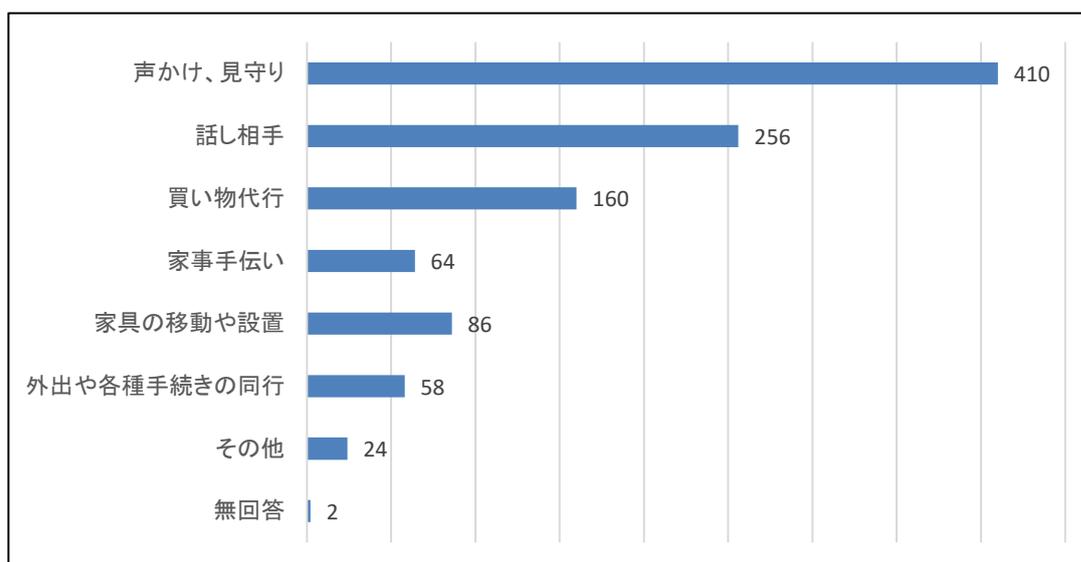


- ・「お住まいの地域」の方が生活上の困りごとに対して、いずれの年齢についても「手伝う」、もしくは「手伝いたいと思うが事情があって手伝うことが難しい」との回答が多く、「手伝いたい」と考える人はいずれの年齢も6割以上である。
- ・年齢別では「報酬や対価があれば手伝う」が、18歳～39歳の世代で平均18.3%、40歳～59歳で11.9%となり、60歳以上の平均3.1%よりも高くなっている。

(29) (28)で「手伝う」と回答した方にお聞きします。次のような困りごとのうち手伝える範囲について、お聞かせください。(あてはまるもの全てを選択)

		回答数	構成比
(1)	声かけ、見守り	410	82.2%
(2)	話し相手	256	51.3%
(3)	買い物代行	160	32.1%
(4)	家事手伝い	64	12.8%
(5)	家具の移動や設置	86	17.2%
(6)	外出や各種手続きの同行	58	11.6%
(7)	その他	24	4.8%
	無回答	2	0.4%
	計	1,060	212.4%

※構成比は「手伝う」と回答した499名に対する割合。

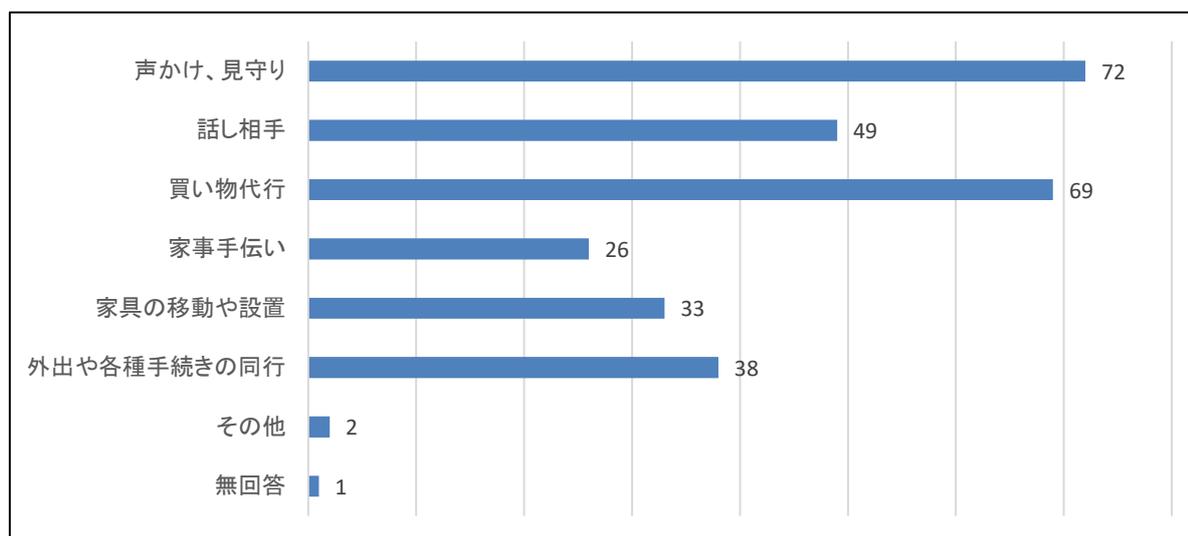


- ・手伝える範囲として、いずれの選択肢も「親子(親と子の2世代)」、もしくは「夫婦(子どもはいない)」の家族構成の人が6割以上である。
- ・「手伝う」と回答した人の居住年数は「21年以上」(42.9%)が最も高く、次いで「14～21年未満」(14.6%)となっている。
- ・いずれの属性でも「声かけ、見守り」が最も多い。次いで「話し相手」が多い傾向がある(例外的に高松町では「買い物代行」のほうが多い)
- ・働き方別でみた「手伝う」と回答した人は、「正規雇用」(30.0%)「非正規雇用」(24.6%)に次いで「無職」16.6%が多い(「報酬や対価あり」の場合の1, 2位は変わらないが、3位は自営業)。

(30) (28)で「報酬や対価があれば手伝う」と回答した方にお聞きします。次のような困りごとのうち手伝える範囲についてお聞かせください。(あてはまるもの全てを選択)

		回答数	構成比
(1)	声かけ、見守り	72	67.9%
(2)	話し相手	49	46.2%
(3)	買い物代行	69	65.1%
(4)	家事手伝い	26	24.5%
(5)	家具の移動や設置	33	31.1%
(6)	外出や各種手続きの同行	38	35.8%
(7)	その他	2	1.9%
	無回答	1	0.9%
	計	290	273.4%

※構成比は「報酬や対価があれば手伝う」と回答した106名に対する割合。

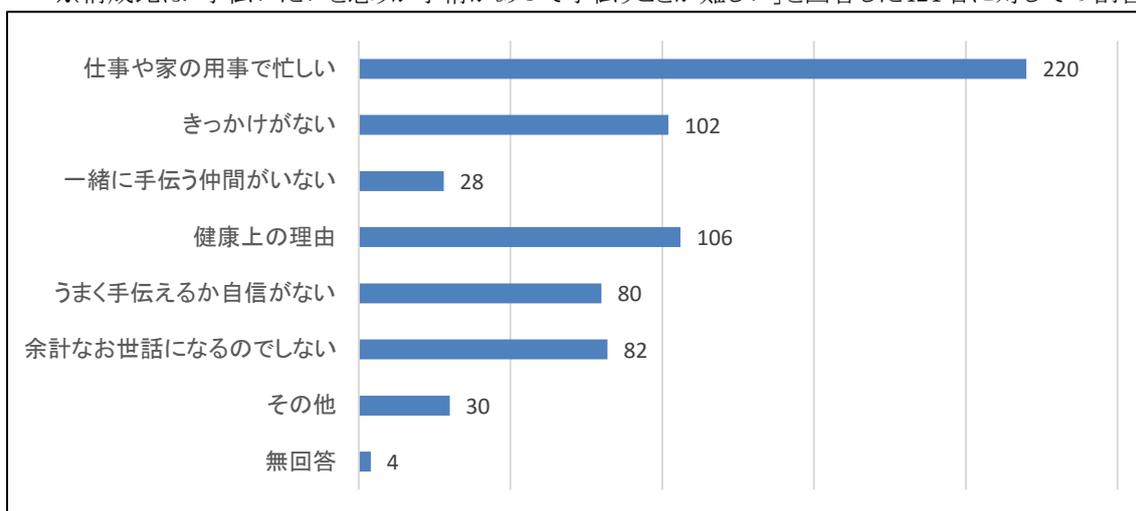


- ・「報酬や対価があれば手伝う」と回答した人は、いずれも「正規雇用」、もしくは「非正規雇用(パート、アルバイト、契約社員)」と回答した人が多い。
- ・設問29では全体の32.1%だった「買い物代行」が全体65.1%となり、「声かけ、見守り」(67.9%)に次いで2番目に回答が多くなっている。

(31) (28)で「手伝いたいと思うが事情があって手伝うことが難しい」と回答した方にお聞きします。そう考える事情はどのようなことですか。(あてはまるもの全てを選択)

		回答数	構成比
(1)	仕事や家の用事で忙しい	220	52.3%
(2)	きっかけがない	102	24.2%
(3)	一緒に手伝う仲間がいない	28	6.7%
(4)	健康上の理由	106	25.2%
(5)	うまく手伝えるか自信がない	80	19.0%
(6)	余計なお世話になるのではない	82	19.5%
(7)	その他	30	7.1%
	無回答	4	1.0%
	計	652	155.0%

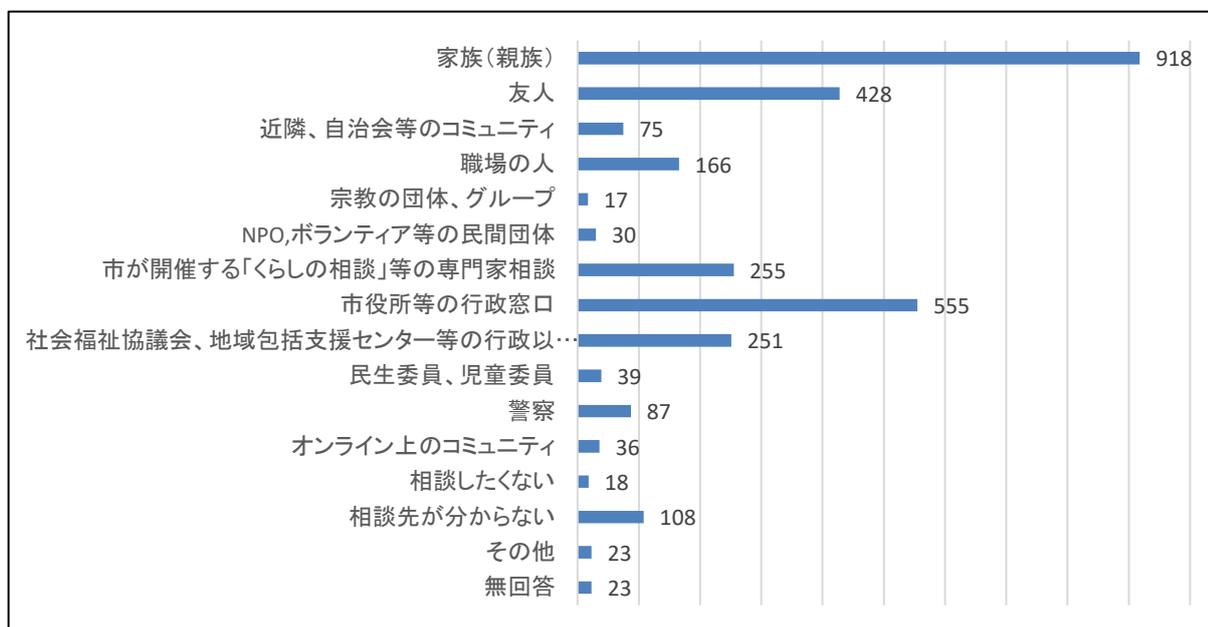
※構成比は「手伝いたいと思うが事情があって手伝うことが難しい」と回答した421名に対する割合。



・「仕事や家の用事で忙しい」(33.7%)や「健康上の理由」(16.3%)というやむを得ない理由の割合が高いが、「きっかけがない」(15.6%)や「うまく手伝えるか自信がない」(12.3%)という理由も多い。

(32) あなた自身、もしくはあなたと同居する方が生活上の困りごとを抱えた場合、どこに相談しようと考えますか。(あてはまるもの全てを選択)

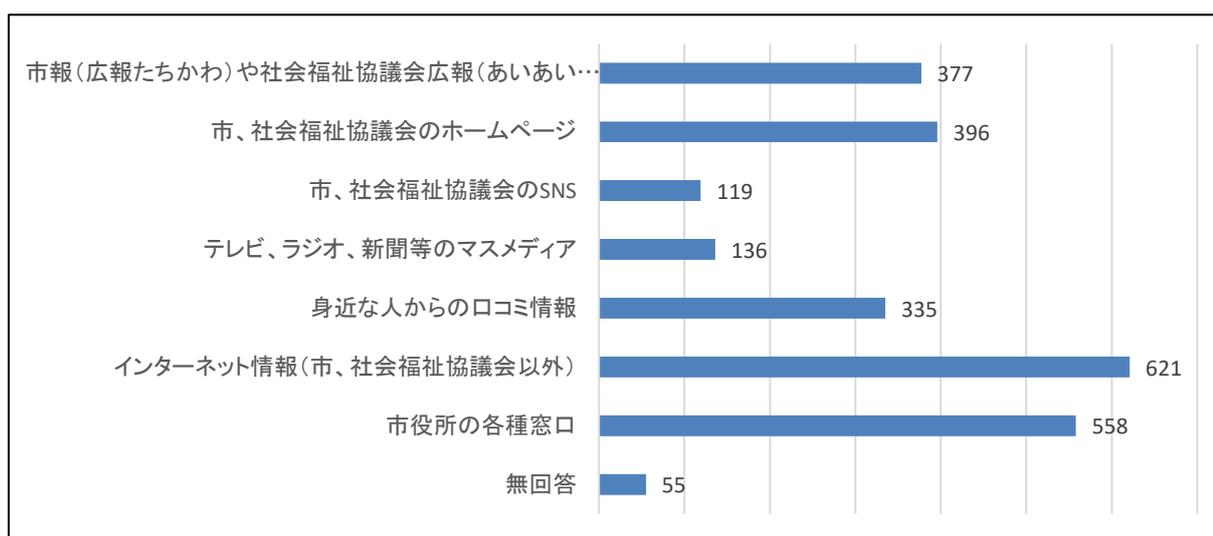
		回答数	構成比
(1)	家族(親族)	918	77.0%
(2)	友人	428	35.9%
(3)	近隣、自治会等のコミュニティ	75	6.3%
(4)	職場の人	166	13.9%
(5)	宗教の団体、グループ	17	1.4%
(6)	NPO,ボランティア等の民間団体	30	2.5%
(7)	市が開催する「くらしの相談」等の専門家相談	255	21.4%
(8)	市役所等の行政窓口	555	46.6%
(9)	社会福祉協議会、地域包括支援センター等の行政以外の相談窓口	251	21.1%
(10)	民生委員、児童委員	39	3.3%
(11)	警察	87	7.3%
(12)	オンライン上のコミュニティ	36	3.0%
(13)	相談したくない	18	1.5%
(14)	相談先が分からない	108	9.1%
(15)	その他	23	1.9%
	無回答	23	1.9%
	計	3,029	254.1%



- ・「相談先がわからない」と回答した人は、「30歳～39歳」、「40歳～49歳」、「50歳～59歳」の区分が全体の6割以上である。
- ・「家族(親族)」77.0%が最も高く、次いで「市役所等の行政窓口」46.6%となっており、概ね属性別でも同じ傾向がある。

(33) あなた自身、もしくはあなたと同居する方が生活上の困りごとを抱えた場合、解決に関する情報はどこから得ますか(得ようと思えますか)。(あてはまるもの全てを選択)

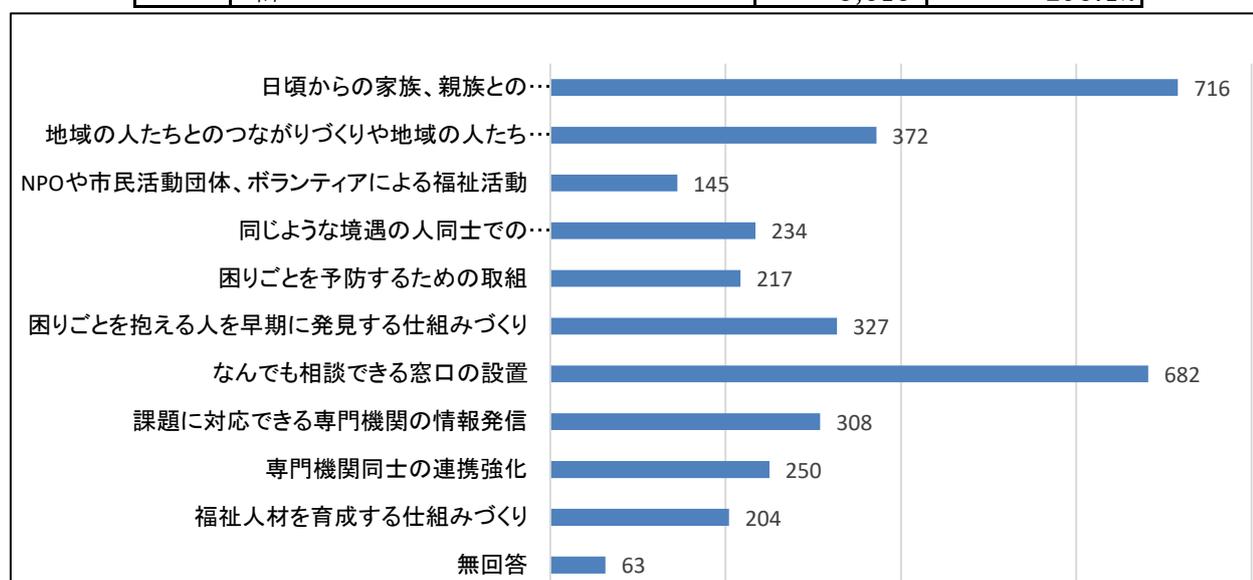
		回答数	構成比
(1)	市報(広報たちかわ)や社会福祉協議会 広報(あいあい通信、まちねっと)	377	31.6%
(2)	市、社会福祉協議会のホームページ	396	33.2%
(3)	市、社会福祉協議会のSNS	119	10.0%
(4)	テレビ、ラジオ、新聞等のマスメディア	136	11.4%
(5)	身近な人からの口コミ情報	335	28.1%
(6)	インターネット情報(市、社会福祉協議会 以外)	621	52.1%
(7)	市役所の各種窓口	558	46.8%
	無回答	55	4.6%
	計	2,597	217.8%



- ・全体としては「インターネット情報(市、社会福祉協議会以外)」が52.1%で最も高くなっているが、59歳以下の世代では平均70.1%となっており、割合が高くなっている。
- ・65歳以上の人の回答は「市役所の各種窓口」平均54.8%、「市報や社会福祉協議会広報」平均41.7%となり、全体の割合と比較して窓口や紙で情報を得る回答が高くなっている。
- ・70歳以上の人は「市、社会福祉協議会のホームページ」から情報を得る割合(平均16.2%)が他の世代(39.7%)と比較して低い。

(34) 生活上の困りごとを抱える人を支援するために、あなたが必要と思うものは
 何ですか。(あてはまるもの全てを選択)

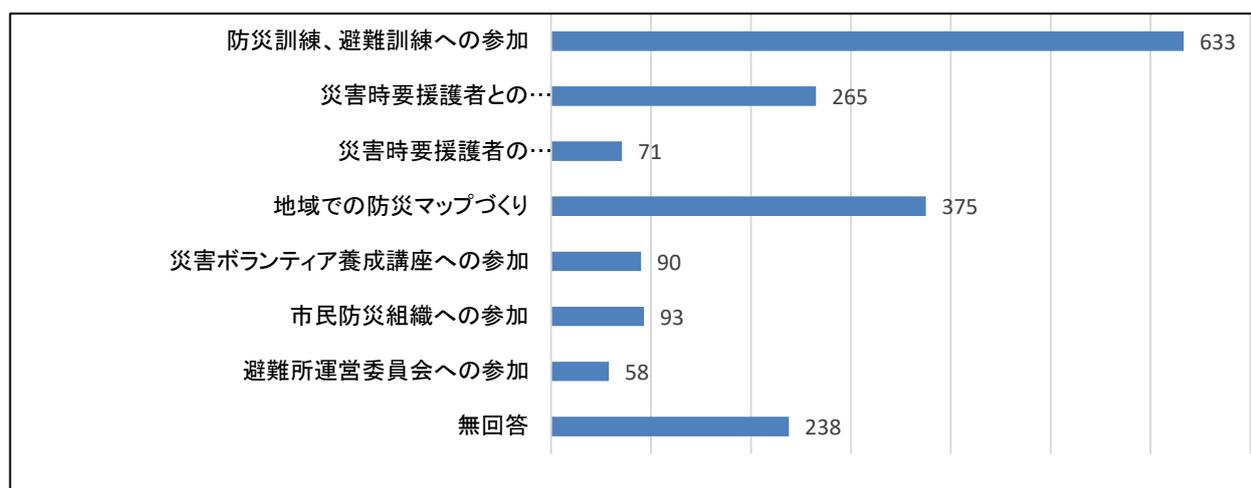
		回答数	構成比
(1)	日頃からの家族、親族との コミュニケーション	716	60.1%
(2)	地域の人たちとのつながりづくりや地域の 人たちの理解と協力	372	31.2%
(3)	NPOや市民活動団体、ボランティアによる 福祉活動	145	12.2%
(4)	同じような境遇の人同士での つながりづくり	234	19.6%
(5)	困りごとを予防するための取組	217	18.2%
(6)	困りごとを抱える人を早期に発見する仕組 みづくり	327	27.4%
(7)	なんでも相談できる窓口の設置	682	57.2%
(8)	課題に対応できる専門機関の情報発信	308	25.8%
(9)	専門機関同士の連携強化	250	21.0%
(10)	福祉人材を育成する仕組みづくり	204	17.1%
	無回答	63	5.3%
	計	3,518	295.1%



・生活上の困りごとを抱える人を支援するためには、「日頃からの家族、親族とのコミュニケーション」、「なんでも相談できる窓口の設置」、「地域の人たちとのつながりづくりや地域の人たちの理解と協力」の身近な相談先を必要と考える回答が多く、属性別にみても同じ傾向がある。

(35) 地震や風水害が発生したとき、その被害を広めないために地域で日頃から取り組んでおくこととしてあなたができることはなんですか。(あてはまるもの全てを選択)

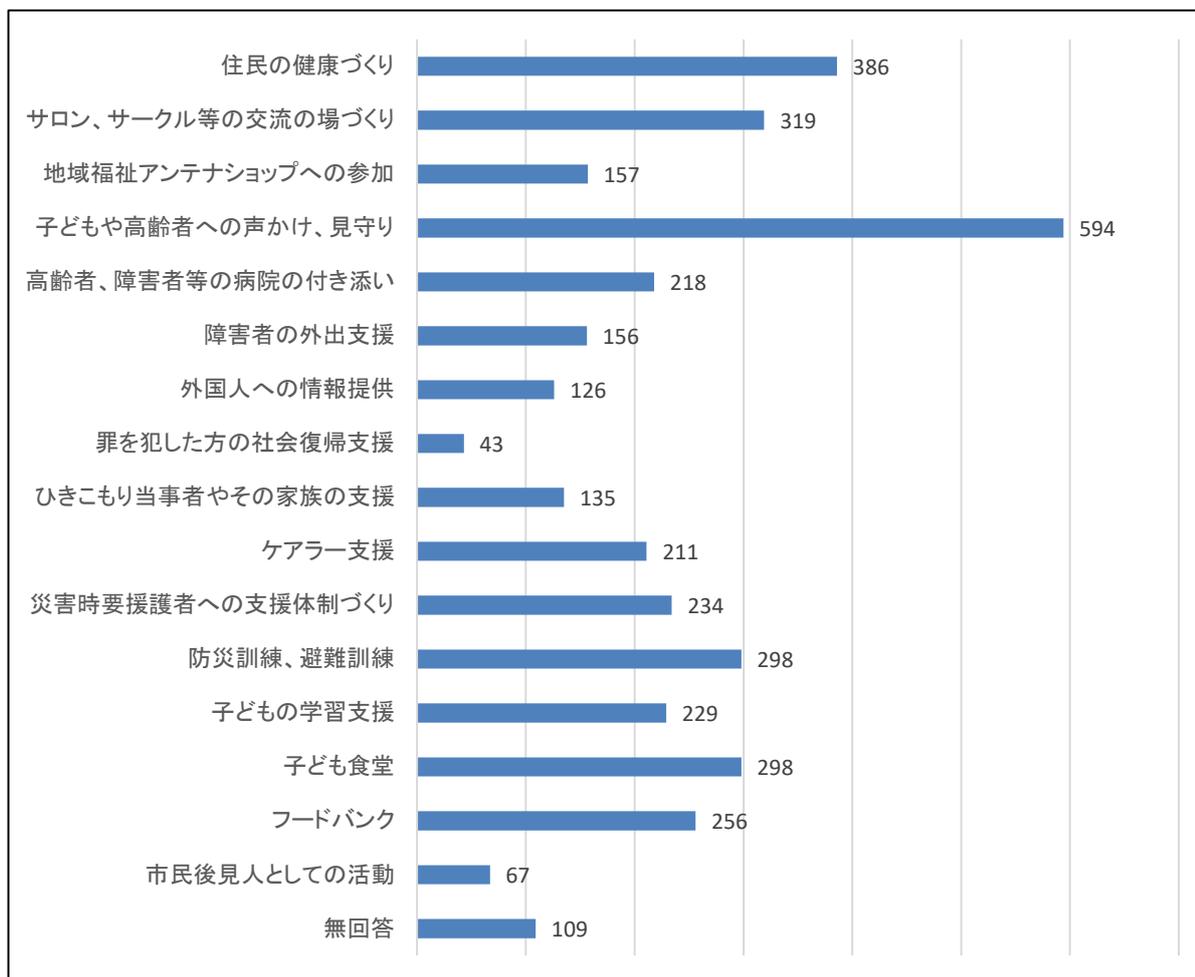
		回答数	構成比
(1)	防災訓練、避難訓練への参加	633	53.1%
(2)	災害時要援護者との顔の見える関係づくり	265	22.2%
(3)	災害時要援護者の個別支援計画への参画	71	6.0%
(4)	地域での防災マップづくり	375	31.5%
(5)	災害ボランティア養成講座への参加	90	7.6%
(6)	市民防災組織への参加	93	7.8%
(7)	避難所運営委員会への参加	58	4.9%
	無回答	238	20.0%
	計	1,823	153.1%



・「防災訓練、避難訓練への参加」が最も高く、次いで「地域での防災マップづくり」、「災害時要援護者との顔の見える関係づくり」の順で割合が高く、どの属性においても概ね同様の傾向がある。

(36) 地域で発生する課題の中には、行政のみの対応や既存の制度による専門的な対応だけでは解決できない課題が数多くあります。次のような課題や取組の中で、住民や地域団体が主体となって取り組むほうがより効果的であると思うものはなんですか。(あてはまるもの全てを選択)

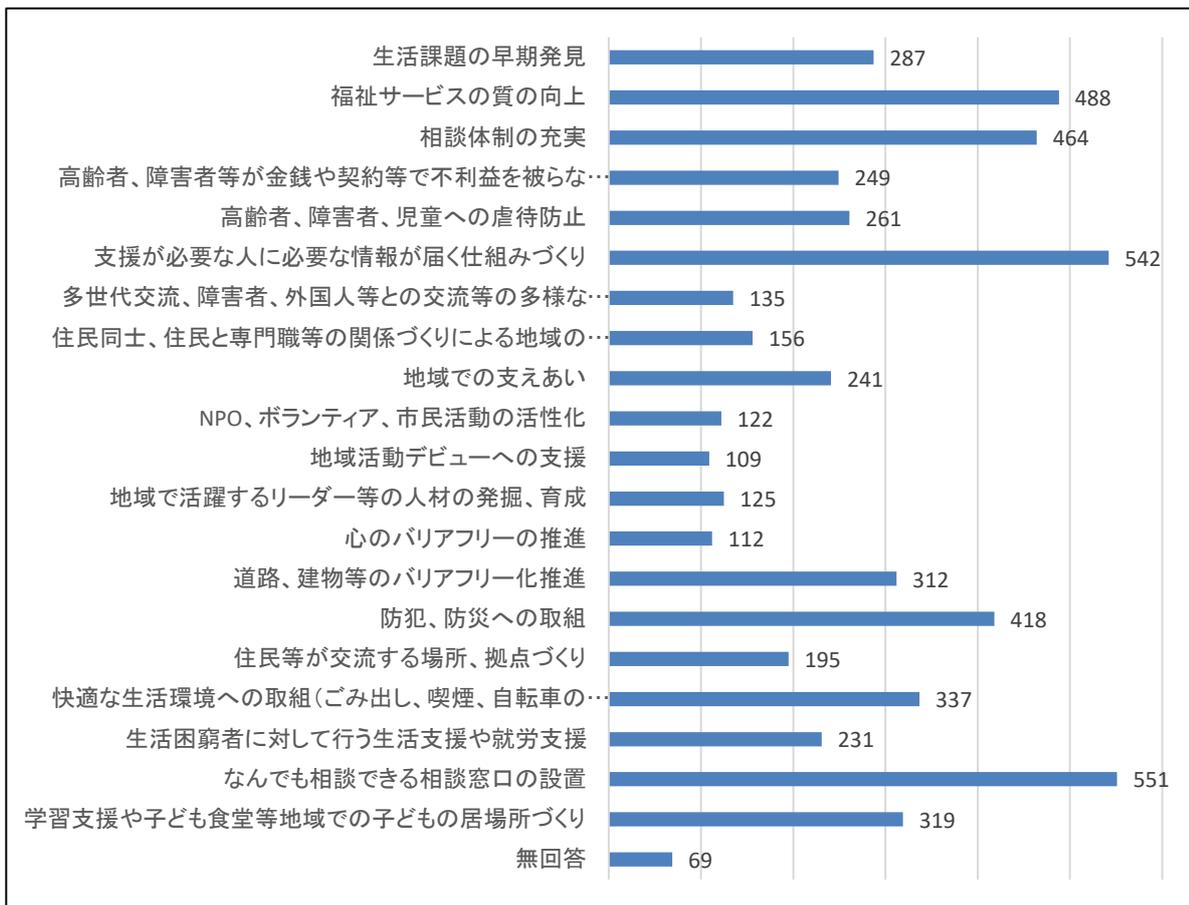
		回答数	構成比
(1)	住民の健康づくり	386	32.4%
(2)	サロン、サークル等の交流の場づくり	319	26.8%
(3)	地域福祉アンテナショップへの参加	157	13.2%
(4)	子どもや高齢者への声かけ、見守り	594	49.8%
(5)	高齢者、障害者等の病院の付き添い	218	18.3%
(6)	障害者の外出支援	156	13.1%
(7)	外国人への情報提供	126	10.6%
(8)	罪を犯した方の社会復帰支援	43	3.6%
(9)	ひきこもり当事者やその家族の支援	135	11.3%
(10)	ケアラー支援	211	17.7%
(11)	災害時要援護者への支援体制づくり	234	19.6%
(12)	防災訓練、避難訓練	298	25.0%
(13)	子どもの学習支援	229	19.2%
(14)	子ども食堂	298	25.0%
(15)	フードバンク	256	21.5%
(16)	市民後見人としての活動	67	5.6%
	無回答	109	9.1%
	計	3,836	321.8%



- 全体としては「子どもや高齢者への声かけ、見守り」が多く、次いで「住民の健康づくり」「サロン、サークル等の交流の場づくり」の順となっているが、39歳以下の子育て世代は「子どもの学習支援」「子ども食堂」の割合も高い。
- 回答者が少ないが「18歳～19歳」は他の世代と傾向が異なり、「子ども食堂」が一番多く、「フードバンク」、同率で「ケアラー支援」「子どもや高齢者への声かけ、見守り」の順に割合が高くなっている。

(37) 今後、立川市をより住みやすいまちにするために、次のうち何を重点的に取り組むべきと思いますか。(あてはまるもの全てを選択)

		回答数	構成比
(1)	生活課題の早期発見	287	24.1%
(2)	福祉サービスの質の向上	488	40.9%
(3)	相談体制の充実	464	38.9%
(4)	高齢者、障害者等が金銭や契約等で不利益を被らないよう支援をする取組	249	20.9%
(5)	高齢者、障害者、児童への虐待防止	261	21.9%
(6)	支援が必要な人に必要な情報が届く仕組みづくり	542	45.5%
(7)	多世代交流、障害者、外国人等との交流等の多様な市民の交流	135	11.3%
(8)	住民同士、住民と専門職等の関係づくりによる地域のネットワーク化	156	13.1%
(9)	地域での支えあい	241	20.2%
(10)	NPO、ボランティア、市民活動の活性化	122	10.2%
(11)	地域活動デビューへの支援	109	9.1%
(12)	地域で活躍するリーダー等の人材の発掘、育成	125	10.5%
(13)	心のバリアフリーの推進	112	9.4%
(14)	道路、建物等のバリアフリー化推進	312	26.2%
(15)	防犯、防災への取組	418	35.1%
(16)	住民等が交流する場所、拠点づくり	195	16.4%
(17)	快適な生活環境への取組(ごみ出し、喫煙、自転車のマナーアップ等)	337	28.3%
(18)	生活困窮者に対して行う生活支援や就労支援	231	19.4%
(19)	なんでも相談できる相談窓口の設置	551	46.2%
(20)	学習支援や子ども食堂等地域での子どもの居場所づくり	319	26.8%
	無回答	69	5.8%
	計	5,723	480.2%



•いずれも支援や相談に関わると考えられる項目の「なんでも相談できる相談窓口の設置」、「支援が必要な人に必要な情報が届く仕組みづくり」、「福祉サービスの質の向上」、「相談体制の充実」の順に回答が多い。